

2019 年

中国語短期語学研修報告書

8 月 18 日～ 8 月 31 日

於：北京外国語大学



お茶の水女子大学

中国語圏言語文化コース

はじめに

中国語圏言語文化コース 橋本 陽介

2015年から始まった中国語短期語学研修は今期で5回目を迎えた。昨年度に引き続き、水津有理先生、陳曉先生に加え、橋本陽介が加わり、学生の募集、計画立案、引率等を行った。研修先はこれまでと同様、交流協定校である北京外国語大学。また参加者は日本学生支援機構（JASSO）ならびに本学独自の奨学金の支援を受けた。

近年の中国語履修者の増加、海外への関心の増加もあって、今年度の参加者はこれまでよりも大幅に増加した。募集の想定が20名のところ、参加希望者が35名となったが、調整の結果、全員参加することができた。

日程は昨年とほぼ同様、8月18日から31日間であった。参加者の増加により、一昨年使用した北外賓館と留学生宿舎に分かれることとなり、トラブルが心配されたが、つつがなく終了した。一年生のほか、二年生以上の参加も多く、バランスが良くなったように思う。

午前の授業も、昨年の2クラスから1つ増加し、3クラス設定してもらった。北京外国語大学の先生方は、外国人向けの授業にたけており、外国語での会話経験が乏しい参加者たちにとって、有意義な体験となった。参加者たちは、積極的に授業に参加できたとのことである。

また、外国での生活経験が少ない参加者も多く、課外の街歩き、もしくは宿舎での各種トラブルを自ら解決する方面でも、勉強することが多かったと思われる。中国は日本と異なる習慣が多く、言葉を使わなければ解決できないことも多い。今回の経験を糧にして、今後もグローバルに活躍していくための学びを深めていってほしいと思う。

例年通り、本研修は「企業体験と異文化体験」を組み込んでいる。今年も昨年同様、北京日本大使館を訪問することができたほか、日系のホテルである長富宮飯店を訪問し、海外で働く日本人の話を具体的に聞くことができた。職員の方々に親切にいただき、多くのことをご教示いただいた。参加者たちも積極的に質問をするなどできた。

本研修では、上記北京日本大使館・長富宮飯店の職員の方々のほか、北京外国語大学留学生事務室の先生方、一昨年より引き続き授業をご担当いただいた陳晶晶先生をはじめとする諸先生方、現地アドバイザーの胡翠南さん、ならびに本学グローバル教育センター、国際課、毎日エデュケーションの方々、その他お世話になりました皆様に感謝申し上げます。

目次

はじめに 中国語圏言語文化コース 橋本 陽介

研修日程

学生レポート

阿部 桃子	文教育学部人文科学科	1年	松井 華	文教育学部言語文化学科	1年
池田 彩乃	理学部化学科	1年	松島 有希	文教育学部言語文化学科	1年
井上 菜乃子	文教育学部言語文化学科	3年	水野 志和	文教育学部言語文化学科	2年
入江 有紀	理学部情報科学科	1年	本部 早紀	文教育学部人文化学科	2年
岩井 眞子	文教育学部言語文化学科	2年	矢口 朋恵	生活科学部食物栄養学科	1年
岡谷 夏子	文教育学部言語文化学科	1年	柳澤 瑞希	文教育学部言語文化学科	2年
角本 夏	理学部化学科	1年	柳田 佳穂	文教育学部人文科学科	2年
柏原 野々花	文教育学部言語文化学科	2年	横村 くるみ	文教育学部言語文化学科	2年
上岡 妃香	文教育学部言語文化学科	1年			
唐島 奈美	文教育学部人文化学科	1年			
日下部 綾音	文教育学部人文化学科	1年			
小澤 理桜	文教育学部言語文化学科	1年			
小島 菜希	文教育学部言語文化学科	2年			
斎藤 涼音	文教育学部言語文化学科	1年			
佐藤 晴菜	理学部情報科学科	1年			
佐藤 友香梨	文教育学部人文化学科	2年			
住谷 冴	文教育学部言語文化学科	1年			
高橋 みなみ	文教育学部人文化学科	2年			
田邊 美玲	文教育学部人文化学科	1年			
田村 夏美	文教育学部人文化学科	1年			
長滝 理乃	文教育学部言語文化学科	2年			
深津 早希	生活科学部人間生活学科	1年			
藤田 こころ	生活科学部人間生活学科	1年			
藤富 奈津子	文教育学部言語文化学科	2年			
二塚 咲来	文教育学部言語文化学科	3年			
古家 綾乃	文教育学部言語文化学科	1年			
牧野 里穂	文教育学部人間社会科学科	1年			



アドバイザーから

北京外国語大学 胡 翠南

引率教員から

外国語教育センター 水津 有理

外国語教育センター 陳 暁

研修日程

		午前	午後
8月18日	日	9:05発 JL021 便 北京へ	12:05北京首都国際空港到着 宿舎にチェックイン 生活準備 現地夕食
8月19日	月	開講式・クラス分け試験・中国語授業	昼：歓迎会 校内参観
8月20日	火	8:00-12:00中国語授業 (50分×4コマ)	
8月21日	水		天安門広場・故宮博物院・景山公園見学 夕食後：雑技鑑賞
8月22日	木		
8月23日	金		ホテルニューオータニ長富宮飯店訪問
8月24日	土	終日：自由行動	
8月25日	日	終日：万里の長城・明の十三陵見学	
8月26日	月	8:00-12:00中国語授業 (50分×4コマ)	
8月27日	火		国家博物館 夕食後：京劇鑑賞
8月28日	水		在北京日本大使館訪問
8月29日	木		
8月30日	金	修了試験	昼：歓送会
8月31日	土	16:20 北京発 JL022 便 帰国 20:55 羽田空港到着 解散	

学生レポート

北京語学研修を終えて

文教育学部人文科学科1年 阿部桃子

今回北京研修に申し込んだきっかけは、一つは第二外国語として中国語を学んでいること、そしてもう一つは、中国という国がどんな国なのか、自分の目で見て確かめたかったからです。率直に言って、私はこれまで中国に対して、あまり良いイメージを持ってきませんでした。しかし、これは自分が日本に居るなかで作り上げた偏見です。だから、その偏見を崩して自分自身で新たな中国の認識を作り上げたいと思い、中国に行くことを決めました。そのため、ここでは実際に北京に行って感じた中国の実像をお話します。

まず、環境について。思っていたのとは違い、空気は汚くありませんでした。私たちが滞在していた時は、PM2.5は日本と変わらなかったそうです。感覚的にも、普段通りだったし、むしろ湿度が低くて日本よりも快適だと思いました。

次に、食について。これは個人的に最も魅力的でした。食に関しては渡航前から楽しみにしている部分はありましたが、その想像を更に超える素晴らしさでした。なんととっても安い。複数人だと、1000円以内で食べきれないほどの量が出てくる、という感じですよ。味もどれも美味しく、2週間居てもまだ食べたいものはたくさんありました（さっぱりしたものが好きな人は少し味が濃いと感じるかもしれませんが）。ちなみに私が一番好きだったのは肉団子スープです。あれは本当に美味しかった、、、。

最後に、治安について。これは感じ方に個人差があるものかと思いますが、私は気になりませんでした。車やバイクの通行はとて多く、日本に比べてワイルドな運転をする方も多かったですが、事故が起きている場面は一度も見なかったのも、運転がお上手なのだと思います。観光地ではやはりスリが多いそうで、ガイドさんに「かばんは前に」とよく言われました。日本に居ると、このような中国人のマナーや犯罪などが取り上げられているのを目にしますが、むしろ私は中国の人々の人柄のよさが印象的です。レストランで、私たちが中国語を理解できずあたふたしてしまった時、店員さんはこちらが理解するまで丁寧に対応してくれました。また、北京外国語大学で中国語を教えてください

た先生方もとても優しく、楽しみながら中国語を学ぶことが出来ました。これらのことは私の中国人に対するイメージを大きく変えることとなりました。

今回の北京への旅で、私は当初の目的通り、中国への認識を自分で作ることが出来ました。それは簡潔にいうと、「思っていたより素敵な国」です。日本と違う部分ももちろんあるけれど、それも含めて私は中国のことをもっと知りたい、もっといろんなところへ行きたいと思えました。百聞は一見に如かず。これからもアクティブに生きていきたいです。

そして最後になりますが、在中国日本大使館の皆さん、ホテルニューオータニ長富宮飯店の皆さん、貴重なお時間を割いてお話しして下さいありがとうございました。将来を模索している今、社会で活躍されている皆さんのお話を伺えたことは自分にとってとても有意義なものでした。特に日本大使館では、グループでもより良い日本大使館にするためにはどうしたらよいかグループディスカッションしたこと、ホテルニューオータニでは、ホテル従業員として働く上でのやりがいを聞いたことが印象的です。これから進路を決めていくうえでの参考にしたいと思います。本当にありがとうございました。

北京語学研修を終えて

理学部化学科1年 池田彩乃

中国語は大学に入ってから初めてふれ、中国語歴たったの3ヶ月で北京に行った。元々、中国の文化や料理に興味があり好奇心に押されたのと、北京は首都だからある程度英語が通じるだろうという安易な気持ちで研修に参加した。事前準備ではモバイル環境にイモトのwifiを利用し、現金だけでなくクレジットカードを用意した。

北京での生活はルームメイトが同学科の友人でイモトのwifiもシェアした。毎日の生活は体調を崩さないことをお互いに気をつけたので、朝は6時ごろに起きて身支度をし、朝食は学校の学生食堂を利用した。ここである日の朝食を紹介したい。



写真1

口に合わないスープ・粥もあったが乾燥している土地なので汁物はありがたい。そして私は毎日違う種類の包子を食べていた。このメニューで3元(約60円)になる。朝食後はそのまま授業に向かい、少人数の授業を受けた。授業で身になったのは作文しその場で添削をするスタイルのもので、現地で即実践できる単語をたくさん習得した。昼食も主に学生食堂を利用した。



写真2

昼食はメインになるようなおかずが10種ぐらい並ぶのでそこから2種類選んでいた。写真のような昼食で約100円で、外食するよりお得でかなり美味しかった。栄養バランスがよく、また中国野菜がふんだんに使われていた。食材の知識があれば良かったのと思う。午後は自由時間なので北京生活2日目で地下鉄に乗ることを習得し、2週間で様々な場所に行けた。一日一箇所以上を目標に北京動物園・南鑼鼓巷・天壇などに行った。特におすすめなのが什刹海にある茶家溥茶館というお店だ。ここは中国茶を専門としている喫茶店で中国では茶館や茶藝館と呼ばれるタイプのお店だ。中には中国流茶道で淹れてくれるお店もあるそうだ。私達はカステラのようなお菓子を食べながら、お湯を継ぎ足しながらじっくりとお茶を楽しめた。中国茶は発酵度合いによって味も風味も全く違う。低発酵度の緑茶(龍井茶・碧螺春)、半発酵の烏龍茶(鉄観音・大紅袍)、高発酵度の黒茶(普洱茶)

など種類は多い。このお店は60~150元(1200~3000円)くらいで約30種の品揃えだ。茶葉の購入はできなかったが購入できる茶館もある。この金額はかなり高い方だ。観光地にあることや、ガイドブックに載るような有名店であることが原因だと思う。北京市内でも高級なお店ということだろう。お茶を購入するには「超市」を利用するのがいいと思う。大学周辺にはいくつかの「超市」があり日々の日用品を購入したが、そこで土産として1缶約20元(600円)の龍井茶や鉄観音茶を沢山購入した。おしゃれな缶入りで多分、茶館で買う半額以下だっただろう。このようにガイドブックの情報は北京の相場から考えてかなり高額だ。また北京に関する雑誌やガイドブックは少なくあまり事前に調べられない。実際に生活してみて先生のアドバイスや大使館やホテルの方の紹介によるお店は大変良かった。宮保鶏丁を注文して食べたり、火鍋のお店に食べに行ったりしたことは大変いい思い出になった。オススメを教えてくださいありがとうございました。



写真3

茶葉にそのままお湯をたす龍井茶

北京語学留学を終えて

文教育学部言語文化学科3年 井上 菜乃子

「帰りたいくないねえ」。2週間寝食を共にした友人と帰国を嘆きながら荷造りしていた最終日の夜から、はや2ヶ月が経とうとしています。北京で過ごした2週間は非常に充実しており、1日1日がそれはもう凄

まじい速さで過ぎていきました。平日の午前中は朝8時から昼12時まで、現地の先生方による分かりやすく内容の濃い講義を。天安門、故宮、景山公園、万里の長城に明の十三陵の観光ときて京劇や雑技の鑑賞、さらには日本国大使館・ホテルニューオータニ長富宮飯店への訪問まで…。こんなに楽しく充実した日々を過ごせば冒頭のセリフが口をついて出てしまうのも納得いただけるかと思います。

私が所属していたクラスでは、陳先生と劉先生という二人の素敵な先生方が中国語の文法を分担して講義してくださいました。研修当初は予習（新出単語を使って作文をする）や宿題（出されたテーマについて作文）に追われる日々でしたが少しずつ慣れていったように思います。

朝食は大学内の学生食堂でとることがほとんどでした。ショーケース内に並べられている「馒头」、「包子」、「油条」などを中にいる人に注文します。お粥やスープなどもあって、私は中でも「西红柿鸡蛋汤」（トマト卵スープ）の虜になりほぼ毎日お世話になりました。研修期間中は本当にたくさんの種類の食べ物を口にしましたがその中でも特に印象深いのは北京ダックと牛肉麺の二つです。北京に来たからには絶対に食べたいと思っていた北京ダックは予想を上回る美味しさに眩暈がするほどでした。というのも、水津先生と橋本先生に同行させていただき「四季民福」という人気店で北京ダックデビューを飾ることとなり、味わったことのない美味しい中華料理・美しい景色・手厚いサービスに完全に浮き足立っておりまして。一生忘れることのできない背徳的な昼食でした。牛肉麺はこの研修中の相棒といっても過言ではありません。日本ではあまり口にしたことのないような独特な香辛料がきいていて病み付きになります。外食の際は「どれにしよう…」と言いながら私の眼にはたいてい牛肉麺しか映っておりませんでした。

北京で出会った方はみな友好的でしたが特に印象に残っているのはホテルでお世話になったサービスのおばさんです。ドライヤーを持参しなかったためフロントに伝えて毎日部屋にドライヤーを届けてもらっていました。おばさんの「使い終わったら電話してね」という言葉を聞き取れたことにも最初はゾクゾクしたのですが二週目で減少しふざけてセリフを一緒に合わせて言ってみたりジェスチャーをいれてみたりしていると、何というか（「さすがに分かっているわよね？」「分

かってますよ～」というような）微妙なニュアンスを互いに感じ取りあうことができたように思います。（これって日本にいたらなかなかできない体験ではありませんか？）

二週間、中国語に囲まれた環境で過ごしたことで己の中国語力の乏しさを痛感したと共に中国語の音の美しさに魅了され中文コースへの所属を決めた一年生の頃をふと思い出しました。研修の経験を糧に中国語学習により一層力を入れようと思います。まとまりのない文章になってしまいましたがこれをもって私の報告書とさせていただきます。

最後に、貴重な話をお聞かせくださった大使館の皆様、ならびにホテルニューオータニ長富宮飯店の皆様にお礼申し上げます。

北京研修を終えて

理学部情報科学科1年 入江有紀

人生で初めての海外ということもあり、緊張していましたが、結果としてはとても楽しい研修でした。理系で1年生ということで、前期は週に2時間しか中国語の授業がなく、自分の中国語力に不安があるまま中国に渡りましたが、初級、中級、上級と実力別にクラスが分かれていたので、無理なくしっかりと語学力をつけることができました。北京外国語大学の先生も優しくわかりやすく教えてくれたので、新しい知識が身につくやすく、毎日中国語の勉強をするのが楽しかったです。会話メインの授業も、私に合っていると感じたので、楽しく学ぶことができました。最終試験では、質疑応答を課せられました。出国前よりも聞き取りができるようになったと思いました。前期の期末試験ではボロボロだったので、嬉しかったです。

初日はずっとお茶大生に囲まれていたこともあり、中国に来たという実感があまりありませんでした。私は、ドライヤーを持ってくるのを忘れたので、毎晩ホテルのフロントに部屋から電話して借りていました。初日はスタッフさんの中国語が聞き取れず、先生に手伝ってもらっていたのですが、毎日借りていくうちに、電話でドライヤーを借りるのもスムーズに行うことができるようになり、スタッフさんとも挨拶ができるようになりました。最終日には、おしゃべりをして別れることができたので、成長を感じました。また、一日

自由時間があつた日に、天津に行ったのですが、高速鉄道を使ったり、街を歩いたりする際に現地の人に場所を聞いたり、道を尋ねたりして、たくさん中国語を使いました。みんな優しく答えてくれたので、とても嬉しかったです。日本で爆買いなどの報道で、少し中国人に恐怖心を持っていましたが、全くイメージが変わりました。また、午前中に授業、午後が自由時間というカリキュラムのおかげで、たくさん観光することができました。高校生の時に世界史を選択していたため、教科書に出てきた遺跡や名所を実際に目で見ることができたので、とても感動しました。スケジュールに、博物館も組み込まれていたのも、たくさん歴史的な美術などを見ることができ、世界史への勉強意欲も高まったりしました。日本大使館や、ホテルニューオータニの訪問プログラムにも参加し、働き方の多様性を知ることができました。将来の進路として深く考えることができました。海外で働くということの意義、実態を知ることができました。お忙しい中時間を取っていただき、ありがとうございました。

中国ではレンタル自転車はキャッシュレス決済が浸透していて、荷物はスマホと充電器のみだという人も珍しくありませんでした。また、レジカウンターのない店もしばしば見られ、日本のITは中国に大幅に遅れを取っているんだな、と身をもって感じる事ができ、情報科学科の勉強意欲につながりました。

学部のうち海外で2週間も過ごせたことはとてもいい経験になったと思いました。この経験を生かして今後学業を頑張っていきたいです。

濃密な二週間

文教育学部言語文化学科中文コース2年 岩井 眞子

研修に行くまでは楽しみな反面、やはり不安もありました。二週間の短期間とはいえ、初めての留学。授業についていけるか、治安や衛生環境は大丈夫なのか…等々、心配事は尽きませんでした。しかし今は、「楽しかった!」「行って良かった!」「また中国に行きたい!」という気持ちでいっぱいです。盗難に遭うこともなく、体調も崩さず、毎日本当に充実していました。授業は楽だったとは決して言えないけれど、毎日4時間、中国語だけに集中して学習ができ、本当に自分の為になったと感じています。

語学はどうしても、「文法は分かるけど会話はできない…」という状態になりがちですが、この研修に参加したことで、「拙くても、とりあえず話してみよう!」と思えるようになり、中国語を話すことに対して抵抗がなくなったというのが大きな進歩だったと感じます。とは言っても、街中の本場の方が話す中国語は本当に高速で、聞き取れないことも多々あり、やはり二週間でペラペラになるのは難しいけれど、帰国してからの学習のモチベーションにもつながっているし、たとえ短期間でも中国で生活したという経験は大きな自信になりました。

北京研修に参加した誰もが感じていることだと思いますが、この研修をきっかけに中国や中国人に対する印象が大きく変化しました。中国人はマナーが悪い、そんなイメージを勝手に持っていたけれど、実際に中国に行くと、中国人は本当におおらかな人たちなのだなぁということがよく分かりました。最初に地下鉄に乗った時は、イヤホンなしで普通に音楽を流している人や、普通にご飯を食べている人、大声で電話をしている人などなど、少し驚きましたが、周りの方は全然気にしていなくて、なんだか自由で穏やかで素敵だなあと感じました。日本人が神経質なだけなのかもしれないと思ったり、帰国したときには、大きなスーツケースを持って日本の電車に乗る方が逆に緊張してしまう程でした。

授業外では地下鉄に乗って様々な場所に行き、中国の文化に触れました。大使館、ホテルニューオータニ長富宮飯店に訪問した際には、実際に中国に住む日本人としての経験など、貴重なお話を聞かせていただきました。

この北京研修はホームステイなどとは違い、先生も同伴してくださって、現地のアドバイザーの方もいて、学校の手厚いサポートがあり、とても安心でした。そして何よりも、同じ境遇にいる友人と一緒に頑張れるのが私にとっては大きな心の支えになりました。一言でまとめてしまうと平易な表現になってしまいましたが、今回の語学研修は本当に良い経験になったし、大学生活での大切な思い出になったと思います。

北京語学研修について

文教育学部言語文化学科1年 岡谷 夏子

私はもともと中国史に興味があったこともあり、中国の文化を実際に体験してみたいと思い今回の研修に参加することにした。実際研修は語学の面においても観光の面においても非常に充実して楽しいものとなった。

まず、午前中に行われた中国語の授業については最初は何を言っているかもわからず、戸惑うことばかりだったが、先生が英語も交えて説明してくださったので、なんとかついていけるように頑張れた。毎日宿題が出たのでボキャブラリーも増えたと思う。特に中国人に実際に中国語でインタビューをするという宿題は非常に大変ではあったが、インプットだけでなくアウトプットの重要性も実感させられ、日本で勉強しているだけではなかなかできない経験となった。研修終盤では、「わからない」ということ自体に慣れたからかもしれないが、なんとなく先生が言っていることがつかめるようになり嬉しかった。

授業が終わると毎日のように色々な場所に出かけた。世界史の資料集でいつも見ていた万里の長城や円明園を目の当たりにして、やっと本物を見られたと思い、深い感動を覚えた。どの観光地もあまりにも広く、スマホを確認したらどうやら毎日10kmほど歩いていたようだ。日頃運動不足の私には少しきつかったが、楽しみながら運動できたのは良かった。国家博物館ももちろん広大で、1日でまわりきることは到底できないと感じられた。個人的には数年前日本にも来ていたが、現地で兵馬俑を見られたのが嬉しい。企業訪問ではホテルニューオータニ長富宮飯店と大使館でお話を伺うことができた。どちらも自分たちだけではなかなか訪れることができない場所であり、とても貴重な体験となった。普段日本から出ることのない私には想像もつかない、海外で働くということはどのようなことなのか少しわかり、もう少し真剣に将来について考えなくては、と思わされた。

食事については、今まで中国産のものに対してはあまり良いイメージを抱いていなかったのだが、実際にはそのような心配は無用だった。どの食べ物も安くて美味しかったし、一度もお腹を壊すことはなかった。今流行りのタピオカも中国では200円弱で飲めた。

2週間という期間は語学力を向上させるためにはあ

まりにも短すぎたが、この短期間でたくさんの貴重な体験をすることができ、何よりこれからもっと中国語の勉強をしたいというモチベーションが高まったように感じる。また機会があれば中国を訪れてみたい。

▼万里の長城



▼円明園



▼国家博物館の兵馬俑



北京語学研修に参加して

理学部化学科1年 角本 夏

2週間の研修を通して、中国の印象が大きく変わりました。授業で習った中国語を現地で使ってみたくて、研修への参加を決めました。当時の私は中国の歴史などにあまり興味がなく、今後中国語を専門に勉強する訳でもないため、大きな不安を抱えながら出発しました。

初日は、皆で夕食を食べに行きました。料理はとても美味しかったのですが、注文やお店の人の中国語が全く理解できませんでした。超市に買い物に行っても、食べ物の味やお金の支払いがわからず、2週間生活していけるのかととても心配になり、早くも日本に帰りたくてなりました。

しかし、2日目以降は、毎日新しい体験や発見ばかりで、毎日が充実していました。地下鉄の手荷物検査は、最初は戸惑いましたが、中国の地下鉄はとてもきれいでわかりやすく、2週間でどれだけ乗ったかわかりません。Wi-Fiが使えず、ほかの人と連絡を取ったり翻訳アプリを使用したりできない中で、友人と2人で北京動物園に行ったのは、冒険のようで楽しかったです。授業で習った中国語を使って、チケットを買ったり、道を聞いたりできたときの嬉しさは、今までの不安を一気に吹き飛ばしてくれました。

授業は、先生がとても優しく、内容が理解できないということはありませんでしたし、中国の文化や他の都市についても動画などを用いて教えてくださり、毎日楽しく受けることができました。宿題で中国人にインタビューをするというものがありました。まだほとんど現地の方と喋ったことがない序盤で、中国語で話しかけるのはとても勇気がいりましたが、自分の中国語がきちんと通じ、相手の中国語も簡単なものなら理解することができたので、自信をつけることができました。

企業訪問では、ホテルニューオータニと日本大使館に行き、お話を伺いました。ホテルニューオータニでは、考え方の違う外国人に教えることの大変さや、海外で働かないと経験できないことなどを教えていただき、今までグローバルに働くことをほとんど考えていなかった私も、興味を持つことができました。日本大使館では、大使館の役割についてのお話を聞いたり、どうしたらより多くの人に大使館に来て日本文化を知

ってもらえるのかのディスカッションをしたりしました。日本文化の良さや日中の繋がりを改めて考えることができ、視野が広がったと思います。貴重なお話ありがとうございました。

2週間の生活の中では、言葉が理解できない点で大変なことがたくさんありましたが、そのような場面で助けてくれたのは中国人の方々でした。中国に行く前は、中国人は冷たい人が多いと思っていましたが、実際はとても優しく、少し困りながらも笑顔で対応してくださり、とても嬉しかったです。今回研修に参加していなければ、中国人がとても優しいことなど、中国の良いところを知ることができなかったため、本当に参加してよかったと思っています。これからは中国の良さを日本にたくさん伝えていきたいです。

北京外国語大学語学研修に参加して

文教育学部言語文化学科中国語圏言語文化コース2年
柏原 野々花

今回、私がこの研修に参加を決めた理由は、中文コースに所属が決まり、これまで、ニュースや新聞で見聞きするようなあまり良くない印象が先行している中国に行き実際に中国の文化や生活に触れることで、中国という国の一端を知り、今後役に立つと思ったからである。

実際、前日までは今回の語学研修が初の海外ということもあり、非常に緊張していた。しかし、いざ中国についてみると、驚きや発見の連続で二週間があっという間に過ぎていった。午前中は授業、午後は自由行動という日程であったので午前中に習得した中国語を実際に午後の自由行動の中で使うことができた。授業は中国語に英語を交えた形式で行われ、最初の頃は先生の言っていることを理解するためについていくことで精一杯だった。しかし、日数を経るにつれて、先生の話す中国語がなんとなく理解できるようになっていったことに感動したし、何よりとても楽しかった。また、午後の自由行動で街中に出た際に現地の中国人の方に道を尋ねられたことがあったが、授業で扱った内容を生かしてきちんと道案内をできたことは、自分の中国語がネイティブに通じるのだという自信になった。また、午後の自由行動では、様々な場所に行った。特に発展中国語の教科書に出てきた香山公園や北京植物

園、西単に行けたことは普段日本で行なっている学習が実際に中国に繋がっていることを実感できた。さらに、全体で訪問した万里の長城や故宮、国家博物館などでは、中国の歴史を感じる事ができた。国家博物館に展示してある所蔵品のなかには世界史の教科書で目にしたことがある物が多くあり、感動して沢山写真を撮ってしまった。研修中はキャッシュレス化が進んでいるところや大きな道にたくさんの車が走っているところなどを多く目にしていたので、急速に発展している現代的な中国の姿と日本では到底及ばないようなスケールの大きな歴史を持つ中国の姿との対比が大変興味深かった。他にも、企業訪問として在中国日本大使館と長富宮飯店の二つを訪問させていただいた。どちらも日本と中国の架け橋のような存在の団体であり、お話を聞かせていただいたことは今後の進路選択にも大変参考になった。

研修中の生活では日本との違いに戸惑うことも多かったが、それにも増して沢山のことを学ぶことができた。日本でさらに学びを深めてからもう一度中国に行きたいと思う。

最後に、今回の研修をサポートしてくださった先生方、アドバイザーの胡さん、訪問を受け入れてくださった在中国日本大使館と長富宮飯店のみなさま、ありがとうございました。

中国がもっと好きになった 2 週間

文教育学部言語文化学科 1 年 上岡 妃香

今回、夏季休暇中に北京で短期留学をするプログラムがあると聞いてすぐに行くことを決めたのを覚えています。そしていざ中国に飛び立つ日、中国語を習い始めて4ヶ月しか経っていないため不安な気持ちもありましたが、それ以上に中国語が話されている国に行くということにとっても強い期待と希望を抱きながら飛行機に乗りました。

北京首都国際空港に着いて周りを見渡すとなんら日本と変わらないように思いましたが、広告や案内表示に目を遣ってみればひらがなが無い、カタカナが無い、そしてどこか惜しい漢字の数々。飛行機から降りたばかりの時は中国に来たという実感が全くなかったのですが、ここでやっと実感することができました。しかし「そうは言っても漢字は似ているし、雰囲気も

さほど日本と変わりはない。買い物の際に使えるフレーズ集はしっかりと読んできたし、私、中国人と普通に話せるのでは？」私はなぜかそんな風に思い始めていました。しかしそう思ったのもつかの間、初めて行ったスーパーでは店員さんの言っていることが聞き取れず、また自分が話していることも分かってもらえず困惑したのを覚えています。自信満々で言った言葉が伝わらなかったのは苦い思い出ですが、それでも何とか意思疎通をしようと挑戦したのは今考えるととても良い経験になりました。また、一度ルームキーを同室の友達と2人で部屋においたまま出てきてしまって入れなくなってしまったというハプニングもありましたが、なんとか筆談でそのことを伝えて鍵を開けてもらうことができ、漢字を勉強していて良かったと改めて思いました。

授業に関しては、全てが中国語で行われる授業は初めてで最初の方は聞き取れない単語も多く、また質問されても答え方が分からずに口ごもってしまうことが多かったのですが、次第に聞き取れることが多くなってきて質問に対してもだんだん早く答えられるようになりました。楽しいことばかりな時、時間が流れるのはあつという間で私にとっては「たったの」2週間でしたが、その2週間だけでもかなり成長することができたと感じています。また、授業が午前中だけであったため午後には自分たちだけで北京市内の様々なところを観光できたのも良かったです。南鑼鼓巷、円明園、北京動物園、そしてホテルニューオータニ長富宮飯店。やはりその圧倒的な雰囲気には驚きました。入る前から感じる堂々とした威厳、入ってから心なしかすべてのものにずっしりとした重みを感じました。特にあの安倍首相も泊まったという最上階のスイートルームを見ることは滅多にできない体験なので帰ってきてから色々な人に自慢しています。

今回が初めての中国でしたが、2週間で経験したことは私の中に強烈な印象を残し、もっと深く中国を知りたいと思わせてくれました。現在は来年の9月から1年間の長期留学に向けて準備をしている真っ只中です。2週間という短い期間だったけれど一日一日が濃密な出来事に溢れていました。この北京語学研修を計画・運営してくださった先生方そして毎日エデュケーションさん、その他この研修に協力してくださった多くの方々、また共にたくさんのことを学んでくれた仲間たち、そして最後に研修に参加することに賛成して

くれ、助けてくれた家族、全ての方にこの場をお借りして感謝いたします。

北京研修を終えて

文教育学部人文科学科1年 唐島奈美

私は第二言語で中国語を選択していて、現地で生の中国語や文化に触れたいという思いで、今回8月18日から8月31日までの2週間の北京語学研修に参加しました。

今まで一度も日本から出たことがなかったので、2週間もの間日本を離れて中国で生活をするということにとっても不安を覚えていましたが、今振り返るとこの研修に参加して本当に良かったと心から言えます。中国という国は日本にも近く、ニュースなどにも度々登場する国です。また、学校などでも中国の気候や風土、衣食住など様々なことを学んでいて、中国については割と知っているつもりでしたが、実際に訪れてみると、日本との違いを肌で感じて、知識として知っているのと五感で感じるのでは全く異なるのだと実感しました。北京の町の匂いは独特で日本では嗅いだことのないものだったので強く印象に残っています。食べ物は、勝手に日本で食べている中華料理と同じようなものだろうと思っていましたが、北京料理は全く違い、私は3日くらいで食べ続けるのには限界がきてしまいました。トイレやお風呂が日本に比べて綺麗ではないということには数日で慣れましたが、やはり食の違いにはなかなか慣れることができず日本食のありがたみを実感しました。

日本では、中国に対してマイナスなイメージを持っている人が多く、ニュースなどでも反日に関する報道や中国人のマナーの悪さなどがよく取り上げられています。しかし、実際現地に行ってみると、優しく英語でコミュニケーションを取ろうとしてくれる人や、ゆっくりとした中国語で話してくれる親切な店員さんもいて、中国に対するイメージが自分の中で変わりました。また、中国人のマナーが悪いとか態度がそっけないとか言われていますが、決して中国人の性格が悪いのではなく単なる文化の違いであるということも身を持って実感しました。

研修で私が一番印象に残っている場所は、盧溝橋です。帰国の前日の午後友達と3人で行きましたが、

盧溝橋は北京市の中でも外れの方にあり、最寄りの駅から30分近くあまり舗装されていないような人の少ない道を歩きました。今まで過ごしていた北京市の中心部とは全く雰囲気が違って少し怖かったですが、リアルな中国の町を見ることができていい思い出になりました。盧溝橋は当時の石なども残っており、世界史好きの私にとっては歴史を直に感じられてとても印象に残りました。

中国には数多くの世界遺産があり、その一部を今回訪れることができましたが、1つ1つ感動が大きく、一生のうちでもう一度訪れたいと思う国になりました。次に訪れる時はもっと語学力を高めて、もっと勉強して行きたいです。2週間という短い期間でしたが言葉が通じなくても自分から何とか話しかけようとする姿勢と行動力は身についたと思います。

お世話になった先生方、参加者の皆さん、ホテルニューオータニ長富宮飯店、日本大使館の方々、貴重な2週間を本当にありがとうございました。

リアルな中国を体験して

文教育学部人文科学科1年 日下部 綾音

私がこの北京研修で得た財産は、中国に対する理解をより一層深められたということです。特に、深い理由もなく持っていた負のイメージを転換することができたのは、とても大きかったと思います。

行くまでのイメージは、空気が悪い、治安が悪い、などマイナスイメージが多かったのですが、実際に行ってみると、思った以上に環境や治安はよく、さらに町の人は予想以上に観光客にやさしかったです。日本で手に入る中国に関する情報はよくない印象のものが多いのですが、それらのイメージは大きく偏ったものだったのだと実感しました。

また、中国という国を身近に感じた瞬間もたくさんありました。現地のニュースで、台風が日本と同じく大々的に報道されているのを見て、中国はやはり、地理的にも近い日本の隣人なのだ改めて感じました。さらに、「日本語の『地位』の地は、中国語の『地鉄』の地だよ」といった、同じ漢字を用いているからこそできる会話が成り立つのを体験して、中国の言葉や文化に対してますます親しみを覚えました。

さらに、現代中国の目覚ましい発展や成長具合も肌

で感じました。特に、「微信」などによるキャッシュレス決済の浸透具合には本当に驚きました。財布やレジでのお会計がもはや過去のものとなっていくのを目の当たりにして、ほんの数十年前まで後進国という扱いだった国が、今や時代の先端を走る超大国なのだと感じ、現代中国のあらゆる物事の進化の速さに圧倒されました。

このように、中国を、日本の中から遠くに眺めるだけではなく、実際に現地に足を運んで体験することで、中国という国のリアルな姿に少し近づくことができたのではないかと思います。

最後に、この研修では多くの方々にお世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げたく思います。特に、大使館職員の皆様、ホテルニューオータニ長富宮飯店の皆様には、企業訪問という形で貴重なお話を聞かせていただきました。普段は入れないような内部も見せていただき、日中間の交流のまさに懸け橋となっている大使館の職員の方や、国家の行く末を左右する大臣たちとも関わるホテルニューオータニの職員の方々のお話を聞いて、誇りややりがいを感じながら、スケールの大きなお仕事をされていることに強いあこがれを感じました。また、異国の地で働くきっかけや難しさについても聞かせていただき、自分の将来を考えるうえでとても参考になりました。本当にありがとうございました。

また、北京外国語大学の先生方には、初日に「文字を見るだけの勉強は日本でもできる。街に出てネイティブの音声を聞いて、自分の言葉で話さない。」という、現地の環境を最大限生かす極意をアドバイスしていただき、おかげで2週間という短い時間の中でも、簡単なやり取りができるくらいに成長することができました。相槌、応答など、教科書の勉強ではあまり注目してこなかった表現に対して関心を持つようになったのは、現地の人々と主体的に交流しようという意識を私が持つことができたからだと思います。

言葉は那邊にありや

文教育学部 言語文化学科1年 小澤 理桜

正直に申し上げますと中国語は嫌いです。正確に言うとお話するのが大変に苦手です。中国文字は大好きなのです。ただ、相手に通じない。なぜか。原因はピンイン

ンです。あの憎き4つの声調が、私の基礎中国語の講義の評定値を下げたことは疑いようありません。ですが、中国に行ったなら中国語を話さなければなりません。顔面だけで中国人だと判断され、3回ほど「你是哪里人？」(あなたはどこ出身なの?) やら「你好、～～」(多分どこかへの行き方を尋ねられたのだと思います。わかる訳ありません)と聞かれました。その度に「我是日本人!!」と言って事なきを得ました。ですが、こちらからアクションを起こさなければならぬ店員さんには申し訳ないことをしました。「要一个」「谢谢」しか辛うじて通じる語を持たない身で万里の長城のプリントTシャツのサイズを伝えることや、個包装の北京ダックを頼むのは頼む方頼まれる方双方に相手の言ったことを柔軟に解釈する力が求められるのです。言葉の壁の厚さを知りました。ついでに自分の言語能力の低さに、1日4回ほど絶望しました。ですが、中国人の店員さんは感動するほど優しい方々が多かったです。一つエピソードを紹介します。確か、私はタピオカミルクティーを頼みたかったのです。スマホの画面を見せて店員さんに「要珍珠奶茶」と言いました。わあわあと話す店員さんの言葉から辛うじて「不」という単語を拾って多分在庫が無いから、別のを頼めと言われてるのが分かりました。困ります。使われてる単語が読めないのです。読めないものは当然発声できません。あわあわと無様に口を開いたり閉じたりしている間にも、後ろに人は並んでいきます。焦ります。これはもう諦めよう……とりあえず並び直そう……と思えば下手な愛想笑いをして列から外れようとした途端に、店員さんがちょっと待てというようなポーズをしました。そして手元のスマホをちょいちょいといじり、私の前にお店のメニューが写真付きで載っているページを表示してくれたのです。その写真を指差すことで、ようやく私はタピオカを購入することができたのです。たかだかタピオカを買っただけとは思えない程の達成感が胸を満たしました。そして一連の流れを見ていたらしいお客のお姉さんに英語で助けてもらいつつ、見事注文したタピオカを受け取ることが出来ました。このようなエピソードは、殆どどんなものを買うときも発生しました。その度に周りの人に丁寧な中国語や、時には英語で助けてもらいつつ、どうにか2週間を乗り切ることができました。そしてその経験を通して、「とにかく何か話してみる」という事を学びました。メンチを切られてるのかと思うほど力強く「ああん？」

と聞き返されたことも多々ありましたが、本当に困っている人には不器用ながらも手助けをしてくれる温かい方々に恵まれたこともあり、留学前よりは話すことに抵抗がなくなりました。今でも二声と三声を間違えたり咄嗟の声調変化を間違えたりと凡ミスを繰り返す日々ですが、中国で得られた貴重な経験たちを胸に、少しずつ成長していく自分を実感します。そんな気持ちにさせてくれた北京研修にはとても感謝しています。

北京語学研修を終えて

文教育学部言語文化学科2年 小島 菜希

北京語学研修には、大学生のうちに海外へ行くという経験をしておこうと前々から思っていたことから申し込みました。出発の日が近くなると自分の語学力や知らない環境への不安でいっぱいでしたが、いざ行ってみると本当に楽しく、また学ぶことの多さに驚きました。研修中毎日日記をつけていたのですが、自分でもびっくりするほど書き込んであり、今も書いたときの気持ちが思い返されます。

日記を見直すと、授業について書いたものはほとんどが「できるようにになりたい」とあります。先生の説明がうまく理解できないことや、周りの友人たちよりも発言できなかったことはとても悔しいことでした。2週間の中で少しずつわかるようにはなりましたが、それでも十分とは言えないまま研修が終了してしまいました。しかし、授業が楽しくなかったわけでは全くありません。先生方はとても丁寧に教えてくださいましたし、休み時間には中国の歌などの動画をみんなで見て文化に触れることができました。宿題で、中国人にインタビューをしてきなさいといわれた時には絶対に無理だと泣きたくてしまったのですが、当たって砕ける気持ちでインタビューを申し込んだ高校生の女の子は優しく、私のたどたどしい中国語でも聞き取ってゆっくり答えてくれました。知らない人と会話できたという事実でその日は嬉しくてたまりませんでした。授業最終日の口頭試験では、初日より先生の質問に答えることはできたものの、わからなかったところなど反省点があります。今はその時の悔しさをモチベーションに授業を受けています。試験の後にお世話になった先生方と一緒に撮った集合写真は宝物です。授業後や休日には友人たちといろいろな場所に遊び

に行きました。参加者は皆お茶大生とはいえ話したことのある友人が少なかったこともあり、出発前は心配していたのですが、そんな心配は杞憂でした。観光に行ったどの場所も大変すばらしく、中国について知れたことや知りたくなかったことがたくさんありました。特に市内見学でのガイドの方のお話はとても面白く、中国の歴史について学び直すきっかけとなりました。また、観光場所へ行くまでの道のりの中で現地の人々の様子をみることもでき、そこに暮らしがあることを実感しました。

企業訪問でのホテルニューオータニ長富宮飯店の方のお話や大使館の方のお話では、実際に中国で働いている人の中国や日本の見方を知ることができました。研修のような短い時間ではなく、お仕事として中国で過ごしたうえでのお話をお聞きしたことで自分の視野が広がったように感じます。お忙しい中お時間をいただき誠にありがとうございました。

研修を終えて思うことは、行ってみなければわからないという言葉が真実だということです。実際にその世界に入ってみて初めて発見することもあれば、今までの見方が変わるということもあるのだなと実感しました。本当にすばらしい体験をした2週間だったと思います。大使館の皆さん、ホテルニューオータニの皆さん、北京外国語大学の皆さん、アドバイザーの胡さん、ガイドの方、引率して下さった先生方、経験を分かち合ったお茶大生の皆さんをはじめとするかわって下さったすべての方のおかげでこのようなすばらしい体験ができました。本当にありがとうございました。

「中国」を体感して

文教育学部言語文化学科1年 齋藤 涼音

14日間の北京研修では、私が予期していた以上に有意義な時間を過ごすことができました。それは中国という国の生活空間に身を置くことができたからだと思います。

現地に行ってみると驚いたことは、交通機関についてです。厳格に守られているとは言えず、さらに青の時間が極端に短い信号。容赦ない車の運転。安全検査があるため長い列ができていた地下鉄の駅。駅員さんに早く早くと怒鳴られながら乗る地下鉄。地下鉄では、

停まった駅で降りる人のために扉の近くにいる人が一旦降りるような文化は無いようでした。このように、最初は日本との違いに驚かされ、ヒヤヒヤすることもありましたが、二週間もあるとかなり適応できました。また、地下鉄では日本のように我先にと座席を奪うということが少なく見え、中には外国人の私たちに席を譲ってくださった方もいるほどでした。この出来事は私の記憶の中に鮮明に残って、多少なりとも私の中にあった中国の方への警戒心がすっと消えていきました。

また、中国の文化にも触れることができました。故宮博物院では規模の広さや建物の荘厳さに感心して、国家博物館では中国の歴史の長さによって驚き、その歴史の流れが目の前で展開されていることに感動しました。そして、中国文化に関して一番心に残ったことは雑伎と京劇を見ることができたことです。高校時代に芸術鑑賞会で見た時とは全く異なり、本場の雰囲気を感じることができました。雑伎では会場全体が盛り上がり、息を呑みながらの鑑賞でした。京劇では、有名な「霸王別姫」が、体中に響くような美しい声で演じられているのを間近で見ることができ、本当に贅沢な時間を過ごすことができました。長年の交流のために中国文化には日本の文化と似ている点も数多ありますが、やはり日本と異なる点もいくつもありその全てが素晴らしいと感じた二週間でした。

研修期間中の企業訪問でホテルニューオータニと日本大使館を訪れたことから多くのことを学びました。中国と日本は、歴史の上では様々な軋轢がありますが、隣国として良好な関係を築き続け、これからはお互いに対等なパートナーとして助け合いながら共に発展していけるようになると良いと感じました。

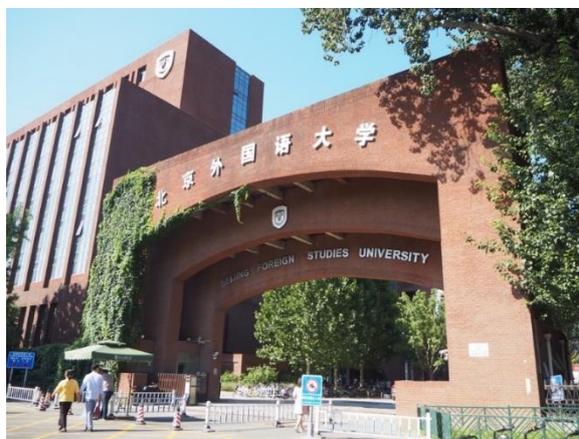
当然のことながら、中国語の能力も向上したと思います。中国語での授業も思ったより難しくなく、先生の言葉に注意深く耳を傾けることで八割がた説明を理解することができました。ゆっくり話して下さったり、わかりやすい言葉で言い換えて下さったり、日本語では何と言うのと聞いて下さったりと、様々な工夫を凝らして下さった先生方のおかげで、発音もリスニング能力も文法の方も上達させることができました。北京の街中を自分たちだけで歩くことに対して、それほど抵抗心がなくなりました。

以上のように、北京研修は本当に良い経験になりました。中国語に触れながら、中国文化を学び、その上現代の中国の生活も身をもって体験したことで、中国

と日本の違い及び共通点を少しは理解できました。中国という日本に近い国に滞在したからこそ、それぞれの良いところも改めて発見できたと思います。これからはもっと深く中国を知ることができるように、中国での経験を振り返りながら日々中国語の勉強に励んでいきたいです。



▲北京動物園の熊貓



▲大学の門

北京語学研修は私を大きく変えた

理学部情報科学科1年 佐藤 晴菜

お茶大に入学して第二外国語を学ぶことにした私は、迷わず中国語を選択しました。なぜなら、最近の中国の成長は確かにめざましく、これからも一層の発展の可能性が十分にあり、将来ビジネスで役に立つであろうと考えたためでした。実際学んでいくと、発声

やピンインなど難しいこともありましたが、どこか日本語に近くて親しみやすい中国語にどんどん興味が湧いていきました。しばらくしてある日先生から、夏に2週間の北京語学研修があるというお知らせを受けました。私はそれまで一度も日本から出たことがなく、高校生の時までは留学も怖がっていたのですが、将来の自分のためにも留学へ行こうと考えました。こんな良い機会はないと思った私は、すぐに参加を決めました。

しかし夏休みに入って北京に行く日が近づいてくると、「なんで私は語学研修に申し込んでしまったのだろう」と後悔するほど不安が大きくなっていきました。生まれて初めての海外で、しかも行き先はメディアであまり良い印象のない中国。中国語もまだまともに喋れないのに、本当に2週間も耐えられるのだろうか。そんな風に思い悩むうちに、出発の日が来てしまいました。

それからはあつという間でした。毎日授業を受けて観光に行ってお食いや買い物をして。北京に行ってから分かったのですが、英語がほとんど通じないのです。身振り手振りを使って、拙い中国語を喋るしかありませんでした。正直言うと毎日のように「日本に帰りたい」と嘆いていましたが、「中国でもやっていけなくないな」という気持ちも少しずつ生まれていきました。

そんな中でホテルニューオータニや日本大使館に行った際には、北京にいるのに母国日本の空気を感ぜられて、思わず笑みがこぼれて泣きそうにもなりました。海外に日本語で温かく迎えてくださる場所があるというのは、こんなにも心強くてホッとするものなのかと感動しました。加えて他では聞くことが出来ないようなお話も聞けて、本当にありがたいことだなと思いました。

最後に、この北京研修の中で一番印象に残っていること、嬉しかったことをお話しします。それは、お店でドリンクがスムーズに頼めるようになったことです。私が宿泊したホテルのすぐ隣には小さなパン屋さんがあり、紅茶やコーヒーなどのドリンクも売っていたのですが、店頭で直接店員さんに「～をください。」と注文しなければなりませんでした。初めはスマホで写真を撮ってメニューを指差して頼んでいて、店員さんが何か聞いてきてもさっぱり分からず、氷を指さされてやっと「ホットにするかアイスにするか」を聞いているのだと分かるレベルでした。しかし徐々に中国語

で注文できるようになり、最後の最後には、店員さんが言っていることも聞き取れるようになったのです。その店員さんは、「氷的?」と言っていたようでした。聞き取れた時の感動は忘れられません。

中国に行ったことで、私はもっと色々な国へ行ってみたいと思うようになりました。メディアの印象よりもずっと温かかった中国のように、他にも素敵な国が数え切れないほどあるはずだと思ったのです。私のたくさんの感動と(いい意味で)衝撃を与えてくれた今回の北京語学研修には、本当に感謝しています。ありがとうございました。

北京研修を終えて

文教育学部人文科学科比較歴史学コース2年

佐藤 友香梨

周りの二年生の参加者がほとんど中国語圏言語文化コースの学生で、第二外国語で中国語をやっていた程度の自分が授業などについていけるだろうかと少なからず不安を抱えながら北京へ行きました。授業を行ってくれた北京外国語大学の先生はいつもニコニコしていてとても優しく、簡単な中国語で授業を進めてくださったおかげでなんとか内容を理解することができました。私たちが理解できなかった時も英語で説明してくれたり、身振り手振りで伝えようとしてくれたり工夫してくれました。簡単ながらもほとんど中国語で行われる授業のおかげで、いままで苦手だった中国語のリスニングは少し上達したと感じています。先生は日本語や日本の文化にも興味を示してくださって、授業間の休憩中などに雑談もしてくれました。日本と中国の関係は国レベルでは良いとは言えないのかもしれませんが、こうして直接話してみるとお互いに理解し合えるのだな、と大げさかもしれませんが感じた瞬間でした。

買い物や外食には苦労しました。北京なら英語も多少伝わるだろうと思って来ましたが、お店の人にはまったく通じませんでした。しかし、下手な中国語だろうが発音などをちゃんと調べて中国語で注文する、という経験は中国語の勉強にはとても良かったと思います。

放課後や休日には様々なところへ行きました。ツアーとしてガイドさんに連れて行ってもらった故宮や万

里の長城、明の十三陵などは、ガイドさんが日本語で説明してくれたおかげで歴史を理解しながら楽しむことができました。歴史を専攻している身としては、これまで授業で聞いてきたものや場所を直接見られたことが嬉しかったです。

また、ホテルニューオータニ長富宮飯店や大使館を見学する機会もありました。ホテルニューオータニさんは個人的な理由で行くことができずとても残念だったのですが、大使館ではためになるお話をたくさん聞くことができ有意義な時間を過ごせました。自分の将来の選択肢として国家公務員を少し考えているので、外務省の職員として働く女性から女性のキャリアや結婚出産などについて詳しいお話をたくさん聞くことができ、自分の将来のビジョンを詳細に考えてみるきっかけになりました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

この北京研修では、2週間という短い期間で色々なところへ行き色々な経験をさせていただきました。初めて中国に直接行ってみて、テレビなどを見て思い描いていた中国とはまた少し違うことを発見し、北京の良いところを友人や家族に広めていきたいと感じることができた研修でした。

初めての海外

文教育学部言語文化学科1年 住谷 冴

私はこれまでに外国に行ったことがなかったので、漠然とした憧れがあり、授業中に北京語学研修の紹介があったときは、殆ど迷わず参加したいと思いました。パスポートを作ったり、重量を気にしながら荷物の準備をしたりと、出発する前から初めてのことが沢山あって、不安もありましたが、とてもわくわくしました。授業は中国語と、時々英語を交えて行われました。作文の宿題がほぼ毎日出て、先生に当てられた人が発表したり、2人1組で簡単な会話の練習をしたりと、口を動かすことが多い授業でした。3回目の授業の宿題で、インタビューの課題が出たことがありました。私は人に話しかけるのが苦手だったので、これは最大の難関でしたが、ホテルの警備員の男性におそるおそる尋ねると、快く応じてくださいました。こちらの言ったことは伝わっている様子だったので嬉しかったのですが、相手の返事は殆ど聞き取れなかったので残念で

した。インタビューの課題を終えてからは、肝が据わったのか、少しずつ、先生に質問したり、お土産屋などで店員に尋ねたりするのをあまりためらわずにできるようになりました。もちろん、自分の言うことが相手に伝わらない、相手の言うことが理解できないということは沢山ありましたが、教科書を読んでいるだけではわからないことなので、貴重な体験ができたと思います。北京では観光地以外英語が通じなかったので、言いたいことが中国語でどう言うかわからずに困ったこともありました。飲食店で注文したときの「注文は以上です」など、日本語で話しているときにはあまり重要と思わなかったのに、実際言えないと困るフレーズを再認識できて面白かったです。中国語の勉強だけでなく、北京では様々な観光地に行くことができました。学校全体のツアーで印象に残っているのは、万里の長城です。自分にとって歴史の資料集に載っている写真でしかなかった場所に、実際に立つことができたときは、北京に来て本当に良かったと思いました。また、ホテルニューオータニ長富宮飯店への訪問の際は、スイートルームやトレーニングルームなど、様々な設備を見学させていただきました。外国の、国賓も訪れるような大きなホテルならではの仕事の大変さや面白さなど、貴重なお話を伺うこともできました。全体のツアー以外にも、平日は昼に授業が終わった後、友達と地下鉄を使っていろいろな場所に行きました。北京動物園では、パンダは寝ていてあまりよく見えませんが、中国の固有種の猿など、ユニークな動物が見られました。また、観光地ではないですが、私は本屋とスーパーマーケットが面白いと思いました。本屋では漫画を置いていないことや、自習スペースがあることに驚きました。スーパーマーケットには甘くないお茶が売っていませんでした。日本との違いをはっきりと見て感じられる場所だなと感じました。中国語の勉強は日本でもできますが、文化や人の様子など、実際に行かなければわからないことが沢山ありました。とても充実した2週間を過ごすことができました。

夏季北京研修を終えて

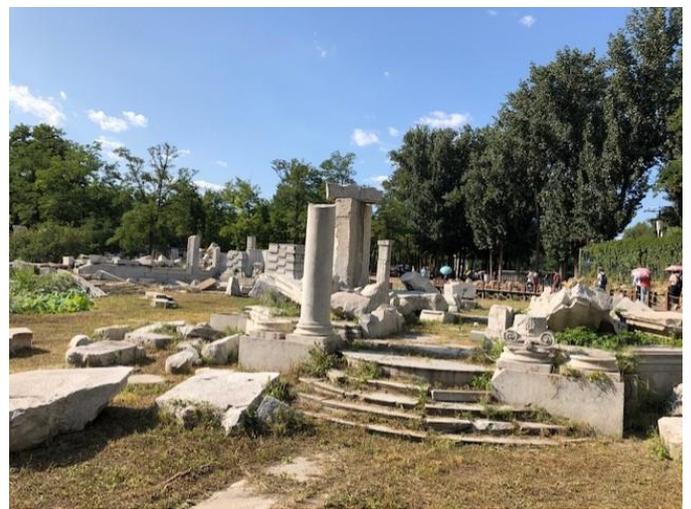
文教育学部人文科学科2年 高橋 みなみ

私が、なぜ北京語学研修への参加を決意したかという、去年一年間中国語を学び、中国語と中国という国に興味を抱き、現地に行って「生」の中国語に触れたいと思ったからです。私は今まで海外に行ったことがなく、今回の北京研修が初中国であると同時に初海外でした。そのため、今回の研修で初めて外国の文化に触れて非常に多くの刺激を受け、とても良い経験ができたと思います。

北京滞在期間中は、午前中に北京外国語大学でオール中国語の授業を受け、午後は自由時間で午前中に習ったことを生かしつつ、自分たちで考えて行動する、という日々でした。授業はオール中国語であったし、先生とのコミュニケーションがちゃんと取れるか不安でしたが、先生が積極的に話しかけてくださり、休憩時間には音楽や映像を流してくださったので、楽しく授業を受けることができました。また、午後には地下鉄を利用して北京動物園、頤和園、天壇公園、円明園、王府井、南鑼鼓巷と非常に様々な場所に行き、毎日がとても充実していました。北京にはたくさんの観光地があり、それぞれとても広大で、教科書や資料集でしか見たことがなかった歴史的建造物などを実際に見ることができて感動しました。

勿論楽しいことばかりではなく、大変なこともありましたが。私は一年間中国語を学んでいたのでも現地の人と少しならコミュニケーションが取れるのではと思っていたのですが、実際は全く中国語が聞き取れず、初めはちょっとした金額でさえ、聞き取るのに時間がかかりました。また、お店での注文もうまく通じず相手を困らせてしまったこともあり、自分の中国語力の無さを痛感しました。そして中国のトイレにトイレットペーパーがないことや流せないこと、当たり前のように路上喫煙がされていること、交通ルールが非常にルーズなことなど日本との文化の違いに戸惑うことも多々ありました。しかし、滞在するうちに中国語を話す力や聞き取る力が鍛えられて、最後には恐れずにお店で注文をすることができるようになりました。また、北京の環境や文化に関しても段々と慣れていったので、特に支障をきたすことはありませんでした。辛かったこともありましたが、忍耐力がついたし、日本で体験できないことを味わえてよかったです。

このように今回の北京研修で様々な文化に触れ、多くの刺激を受け、中国語力の向上を実感することができました。私は今まで中国にあまり良いイメージを持っていなかったのですが、実際に行ってみて人々のフレンドリーで明るい様子や現金を持たない人が多いということなど、本当に驚くことばかりで、中国に対するイメージが一変しました。自分の視野を広げられたという面でも、今回の研修に行ってよかったなと思っています。最後に、今回の研修でお世話になった全ての方々に感謝を述べたいと思います、ありがとうございました。



北京で歴史を感じる

文教育学部人文科学科1年 田邊 美玲

私たちは8月18日から31日まで、中国の北京に語学研修へ行きました。

北京は東京に比べて少し暑く、空気が乾燥していました。空港に着いた時、空港内で流れるアナウンスや、職員さんたちの話す言葉が中国語で、日本とは文化も言語も全く違う国に来たのだということを改めて感じました。大学の教室での授業と違って、だれもが分かりやすく発音してくれるわけではないので、はじめは現地の方が話す中国語が聞き取れず、2週間もやっていけるのか不安を感じていましたが、毎日の中国語会話の授業や、午後の北京市内探索を通して、徐々に聞き分けることができるようになりました。

私が今回の研修で一番心に残っていることは、盧溝

橋へ行ったことです。盧溝橋は、ほかの観光地のように、にぎやかで活気があり、中国独特の華やかな街並みがあるわけではありませんでした。最寄り駅を降りると、あまり人通りもなく、車が行き交い、よくわからない工場が立ち並び、地図を見ても目的地までの道が見つからず、本当にたどりつけるのか、何度も不安に襲われました。ですが、歩いた先に盧溝橋が見えた時、何とも言えない高揚感を覚えました。私は今、歴史を大きく動かした盧溝橋事件の起こった“あの”盧溝橋にいるのだ、と。橋の一部は当時のままのものが残されており、実際にその上を歩くことができました。表面に空いた銃弾の痕のような穴を見つけたり、橋から川（沼？）の様子を見て事件当時に思いを馳せたりして散策をすることで、中国と日本の歴史を肌で感じることができました。

そのほかにも、観光だけでなく、日本国大使館やホテルニューオータニ長富宮飯店への社会見学にも参加させていただきました。大使館では実際に現地で働いている女性職員の方のお話を聞くことができ、自分の将来の展望がひらけたように感じました。これからは、日本国内だけでなく、海外にも目を向けていきたいと思えます。ホテルニューオータニでは、現在の総理大臣である安倍総理の宿泊された部屋に入らせていただきました。職員の方によると、PanasonicやSONYなどの会社勤めの方が来る際には、お部屋の電化製品を入れ替えたり、どの会社の製品もまんべんなく取り入れてお客様の気分を害さないようにしたりしているとのことで、日本のホスピタリティを強く感じました。

中国という異国の地で学ぶことによって、自分の将来の視野を広げたり、歴史に対する価値観を改めたりすることができました。今回の研修で学んだことを忘れずに、大学での学習に取り組んでいきたいと思えます。

初めての海外経験を経て

文教育学部人文科学科1年 田村 夏美

私は2019年8月18日から8月31日までの二週間に初めての海外留学を経験しました。それまで私は海外経験はおろか、飛行機に乗ったこともなく、初めてのことが大変多いので出発するまでの夏休みの期間で

授業で習ったことの復習をしてはみましたが、自分の語学力で本当に留学していいのか今更悩んでいました。そんななか短期研修がスタートし、そこからは不安なことを考える暇もないくらいあっという間の二週間でした。結論から言うと、この中国短期研修に行つてよかったなと心から思います。この研修の目的である語学力の面からまず振り返ってみると、私は語学力というより、違う言語の人と話す際のコミュニケーション能力が上がったのかなと感じました。今まで海外にでたことのなかった私からすると、その場にいる人の話している言語が全て違う言語で自分がマイノリティになるという経験が新鮮でした。そんな自分が少数派になった環境下でまだ自分のモノにできていない言語を使ってコミュニケーションを取るというのはかなり勇気のいることでした。研修開始当初はお店で物を購入するのでさえかなり緊張し、臆していましたが、中国での授業を通してだんだんと緊張がほぐれていきました。中国で行われた授業は習熟度別で午前中、文法と会話の二つの項目に分けて進められました。どちらの項目においても話すことが重視され、コミュニケーションを取る機会が多くありました。このコミュニケーションを意識した授業のおかげで私は日常において、研修開始当初よりは臆せずに行動できるようになりました。教えてくださった先生もとても優しい方達で、楽しく授業に参加することができました。本当に感謝しています。

また、この短期研修においては授業以外のアクティビティもいくつか用意されていました。授業のない午後の時間や土日を利用して様々なことを経験させてもらいました。天安門広場や故宮博物院、また万里の長城などに行きました。どの場所も中国の壮大な歴史を感じさせてもらえるもので、日本では味わえない感動を味わうことができました。他にもホテルニューオータニ長富宮飯店や大使館の見学もすることができました。実際に中国現地に住んで働く方々の話はとても現実味があり、勉強になりました。ホテルニューオータニにおいて、首相が泊まるレベルのお部屋を見せていただいて感動しましたし、大使館での女性外交官の方々の話は公務員という職業を考えるきっかけをくださいました。本当にありがとうございました。

この中国短期研修は、私にとって様々な面で学びをくれた、とても良い時間でした。今度また行く機会があったら、その時には自分の言いたいことがもっと伝

えられるようになるため勉強をがんばりたいと思います。

北京語学研修を終えて

文教育学部言語文化学科2年 長滝 理乃

2週間の北京研修は、私にとって大きな意味を持つ時間となりました。

まず今回が初めての外国訪問であった私は、現地の方と言葉が通じないことに衝撃を覚えました。一年間勉強したはずの中国語なのに、全く何を言っているのかわからない。とにかく早くまくし立てる。滞在したホテルの部屋の清掃員の方が着いた早々何か喋りかけてくれたのですが、「谢谢」しか言えず、もう少しでも自由に意思疎通が取れたらと思うと歯痒くてなりませんでした。2日目に初めて学生だけでご飯を注文するときにも、注文したいメニューを読み上げられたのは良いものの、店員の方がおそらく単品に焼餅を付けるかどうかを訊いてくださっていたのですが、何度聞いても何を言っているのか分からず、結局レシートを見てぼったくられたのかと思い震えました（ついてきた焼餅はもう一度食べたいくらい美味しかったです）。そんなことがありながらも、何を言っているのか分からない顔をすると、現地の方はぼ全員がもう一度、二度と繰り返し話してくださり、時には英語や指差して意思疎通を図ろうとしてくださって、分かったという顔をするとニコニコしてもらえました。最初は発音がおかしくて言葉が通じないのではないかと不安になり気後れすることも多かったのですが、そのように出会う中国人の方々が皆優しく寛容であったり、また中国語の授業において街で出会う表現を勉強したりで、次第になるべく積極的に中国語を話そうと思うようになりました。

そしてもう一つ、日本と様々な違いがあることに衝撃を受けました。事前にトイレの紙はゴミ箱に捨てると聞いた時にはそんな場所もあるのか程度の認識でしたが、実際に行ってみるとゴミ箱に捨てる以前に紙が備え付けられていませんでした。またご飯は量が多くて食べきれず、道路は交通量が多く飛ばしているのが冷や冷やししながら信号を渡り、バスは大声で次の停留所の名前を叫ぶ人がいたのですが聞き取れず降りる停留所を間違えました。そんな日本ではない環境に圧倒

される中でホテルニューオータニ長富宮飯店や大使館の訪問は、中国から見た日本を見ているようで印象深いものでした。ニューオータニでの中国人と日本人の感覚の折り合いの付け方や営業のお話は聞いていて考えさせられ、大使館での女性の外交官としてのお話は現実的で想像に難くないものでした。どちらも中国という国の良さを話されていて、それが当時では身に染みて理解できました。

短期研修を通して、気軽に意思疎通の出来ない環境とそんな中で意味が通じた時の嬉しさ、文化や生活の違いとはこういうことなのだと感じました。しかし日本が良い北京が良いというわけではなく、どちらもいろんな人がいて、いろんな考えがあることを実感できました。初めての外国でしたが、学びの多い2週間でした。

新しい文化に触れて広がった世界

生活科学部人間生活学科1年 深津 早希

私にとって北京語学研修は、毎日新しい出会いや中国の文化に触れる機会に溢れていて、とても刺激的で充実した2週間でした。初めての海外ということもあり不安もありましたが、大学の手厚いサポートのおかげで無事に2週間を過ごすことができ、その間に貴重な経験をたくさんすることができました。今では、この研修に思い切って参加してよかったと心から感じています。

研修中の授業は全て中国語で行われましたが、先生方が簡単な中国語を使って説明してくださったおかげで、自分の力で聞いて理解するという体験をたくさんすることができました。午前中に授業を受けて学んだことを、午後の自由時間に実際に街へ出てそこで出会った人たちとの会話の中で使ってみる。それを何回も繰り返していくうちに、少しずつ中国語を聞き取ったり伝えたりできるようになっていく喜びを感じました。実際に現地の中国人と話す機会が想像していたよりずっと多かったことには驚きました。どこを歩いていても話しかけられるのです。そして、私が中国人でないことが分かっても、一生懸命に会話を続けようとしてくれました。中国人は他人との壁を作らず、むしろ他人との交流を大切にしているのだと感じ、その文化を素敵だなと思いました。

また、研修期間の2週間で言語以外においても、歴史的建造物や人々の暮らしの様子など様々な中国の文化に触れることができました。特に、中国人の暮らしにはとても衝撃を受けました。放課後や休日などの様子を見ることができたのですが、スポーツや音楽、ボードゲームなど皆おもしろい活動を中心に屋外で行なっていて、その場で出会った人たちとも楽しそうに交流していました。多くの中国人が、決して裕福ではないはずの生活にも関わらず、とても生き生きとして見え、その生活が羨ましくも感じました。ゆったりとした時の流れの中で自由な時間を過ごすこの文化は大切にされるべきものだと感じました。

私は研修の数ヶ月前まで自分が中国に行くなんて全く予想していませんでした。大学に入り、第2外国語として何となく選んだのが中国語でした。普段の日本での生活でもよく耳にする中国語がわかるようになったら楽しいかなというくらいの理由で中国語を選んだのですが、いざ勉強し始めてみるとその面白さにもっともっと勉強したいと思いはじめようになりました。中国語を勉強し始めてたったの4ヶ月ほどでの語学研修でしたが、この研修のおかげで中国へのイメージが一気に広がり、中国に興味を持つきっかけを与えてくれました。またいつか中国を訪れて、もっと色々な面から中国の文化に触れてみたいと思っています。

中国文化の奥深さについて

生活科学部人間生活科1年 藤田 ころろ

今回初めて中国という国に行き一番驚いたことは、中国人の優しさと人懐っこさである。私は中国に行く前に抱いていたのは、危険であること、ルールやマナーが緩いというイメージであった。実際に行ってみて、人々が中国に対して危険だと思うことや、ルールやマナーが緩い、と思う理由も理解できた。しかし私は、それ以上に中国人や中国の雰囲気引き込まれていった。

私は北京で日本大使館に行かせてもらって、現役女性の外交官の方々からお話を伺ったのがとても勉強になった。私は大学でジェンダーの勉強をしているので、海外と日本を行き来しなければならない職業についている女性について興味を持っていた。女性外交官の結婚や出産、子育ての話を実際に聞くことができ

非常に勉強になった。自分の信念をもって仕事に向き合っているのが良く分かり、とてもかっこいいな、と思った。女性が活躍している現代が直面をしている壁を感じ、私は自分の将来をよく見据え、これから考えていきたいと思う。

北京外国語大学では平日毎日中国人教師による授業を受けた。授業がすべて中国語で行われたため、はじめの数日間は先生の言っている中国語が全く理解できず、非常に苦労した。そんな時は日本人の友人と授業後に先生の言っていたことが何であったのか、復習をした。授業を受け始めて数日たつと、先生の言うことが何となくわかるようになった。本場中国で中国語を学んでみて、いかに自分の中国語の発音がネイティブと異なっているのかを痛切に感じた。現地の中国人に中国語で話しかけて、比較的簡単な単語でも意味が通じていないことが多かった。数回様々な言い方を試してみて、やっと通じる、くらいの頻度であったのだ。日本では体験することのできない正確な発音練習になったと思う。

中国人の優しさと人懐っこさは、現地の人々と話しているときに感じた。私が中国語を理解できない、話せません、という意思表示をしても構わず中国語で話しかけてきたり、正しい中国語を教えてくれたり、中国文化について話してくれた。博物館で展示品を見ていたら、隣の中国人がおそらく目の前の展示品について話しかけてきたことがあった。日本人は決してしないような行動に驚きつつも、その人懐っこさがあったかくも感じた。

中国に実際に行ってみて、中国の奥深さ、良さを感じることができ、非常に良い経験となった。中国には中毒性があると私は思う。

北京語学研修を終えて

文教育学部言語文化学科2年 藤富 奈津子

私は今回の研修にこれまで習った中国語を実際に使える中国語にしたいと考え参加することを決めました。たった2週間ではありましたが内容は非常に濃く、自分はまだまだ中国語のスキルが備わっていないので更なる勉強が必要だと再確認できるとも良い時間でした。

授業は基本中国語で行われ、理解が難しい内容につ

いては英語で教えてくれました。先生方は平易な中国語を使って分かりやすく教えてくれましたが、私にはそれでも大変で予習復習は必ず必要だと思いました。

午後からは自由時間なので友達と様々な観光地に出かけました。1日基本2万歩は歩き、凄い時は3万歩を超えるぐらい歩きました。やはり中国は広いです。

私は日本にいる時、タピオカがあまり好きではなく全く飲んだことが無かったのですが、中国のタピオカが安くて非常に美味しかったので2週間のうち10回タピオカを飲みに行きました。それからというもの、日本に帰ってからもよく飲んでいきます。

私たちは日本人なので黙っていると観光地でよく中国人と間違われ、中国語で話しかけられます。そういう時に授業内で出てきた単語が登場し、内容を聞き取ることができるととても嬉しいし、自分の成長も実感できます。

最初のうちは物を頼むのに指を指して「这个」、「一个」とか言ってました。けれど、やはり中国語を実際に使えるようになりたいので、下手くそでもチャレンジしてみようと思い途中からは商品名をちゃんと読み、自分の言葉で頼むようになりました。せっかく中国に来たので喋れそうな時は喋るべきだと思います。

私はこの研修で中国と日本の文化の違いにとっても驚き、興味が湧きました。特にトイレが日本とは全く違う方式で、トイレに行く時は毎回どんなメーカーのものなのか、紙は設置されているか、流すことができるのかの3点を確認していました。紙は設置されていないことが多く、学生スーパーなどで買う紙は4枚重ねで柔らかくないのでこれから中国に行く人には日本からトイレットペーパーを持っていくことを強くおすすめします。

また、ホテルニューオータニでのお話は中国で働くことになった方の実際の心境や生活環境を聞くことが出来たととてもためになりました。また、ホテルニューオータニの方には北京のおすすめの場所も教えて頂き、より一層北京を楽しむことが出来ました。

大使館では中国で活躍されている女性職員の方々のお話が聞けて、自分もこのような強くたくましい女になりたいと心から思いました。

私がこの研修で最も印象に残っているのは飲食店での店員さんの対応です。拙い中国語しか喋れない私たちの言葉を少しでも理解しようと何度も聞き返してくれました。また、私たちが逆に店員さんの言葉を聞

き取れない場合は自分の携帯で文字を打って私たちに言葉を伝えてくれました。

私は今まで日本から外に出たことがなく、今回の研修に参加することにとっても不安を感じていました。しかし、同じ学年の友達が多く参加していたことや様々な人のサポートのおかげで無事に研修を終えることが出来ました。本当にありがとうございました。この経験を胸にこれからも中国語の勉強に励みたいと思います。

我想再去中国!

文教育学部言語文化3年 二塚 咲来

北京研修を終えて、中国の良さをたくさん知ることが出来ました。“中国の良さ”と、ひとくくりにしてしまうと、薄っぺらい感想のように聞こえてしまいがちですが、食・文化・歴史・建物... 見るもの、食べるもの、感じるもの全てが魅力的で、2週間があつという間にすぎてしまうくらい充実した時間を過ごすことが出来ました。

高校生の時から中国語を学んでいた私ですが、中国を実際に訪れるのは初めてで、北京首都国際空港に到着したとき、とても胸が高鳴りました。北京という都市は、自分が想像していたよりもずっと空気がきれいで青空が気持ち良く、先生やアドバイザーの方だけでなく、現地の方、お店の方、全ての人が親切で、1日目にしてすっかり北京での生活を気に入りました。また、中国ではSNSが一部制限されているので、日本にいる時よりもスマホを眺めている時間が極端に減りました。早起きをして、食堂で朝ごはんを食べ、授業をうけて、午後は観光にでかけて、夜は宿題をして寝るというように、規則正しい生活を送ることができ、毎日心地のいい疲労感と充実感を得られていました。

北京には、近代的な建物やオシャレで綺麗なビルが立ち並ぶ一方で、歴史のある街並みも残っており、現代と昔ながらの良さが融合した都市であると感じました。自然と歴史という観点からいうと、特に万里の長城は圧巻でした。果てしなく続く階段を上るのは、足が痛く息が切れるくらいにきつかったのですが、景色が美しすぎて、疲れも吹っ飛びます。いろいろな国からたくさんの観光客が来ていて、「がんばれ!」「Fight!」「加油吧!」と、声を掛け合いながら上ること

ができ、とにかくハードな道のりですが、上の価値はとてもあります。

日本にいと中国語を用いて、人とコミュニケーションをとる機会はなかなかありません。北京に行ったことで、座学や検定試験の勉強では得られない、会話が成立したときの嬉しさや、コミュニケーションの楽しさを知ることができ、今後の中国語学習に対するモチベーションも更に上がりました。北京研修を通じて、以上で触れたような多くの発見があっただけでなく、改めて中国という国や、中国語学習が好きであると実感でき、自分の学んでいる分野に誇りを持つことができ、この研修に参加して本当に良かったと思っています。

引率して下さった先生方、現地の先生方、現地アドバイザーの胡さん、研修と一緒に参加した学生の皆さん、大使館の方、ホテルニューオータニ長富宮飯店の方、本当にありがとうございました。

北京語学研修について

文教育学部言語文化学科1年 古家 綾乃

二週間に渡った北京語学研修では、中国に行ったからこそできた経験が非常に多かったように思います。特に現地で会話をすることから分かることは多かったです。発音に関して、研修に行くまでは正確でなくてもある程度理解してもらえないのではないだろうかと考えていました。しかし実際は、発音が異なると全く通じず、店員とのやり取りなど短い会話でもかなりの時間がかかってしまいました。正確に発音する重要性を改めて実感しました。実際の会話を通して自分の欠点を見つけられたので、価値のある経験だったと思います。また研修中に参加した授業は中国語のみだったため、リスニング力も非常に大切だと感じました。言語を用いて人と会話をすることで相手の言っていることは聞き取れなければならないので、聞き取る力は今後は非高めていきたいです。

研修では多くの観光地にも連れて行っていただきました。万里の長城や明十三陵など、個人での旅行だと行きづらい北京中心部から離れた史跡に連れて行っていただいたのでとてもありがたかったです。ガイドさんの解説もあったため、ただ見ているだけでは気がつかないことも知ることが出来ました。詳しい情報を日

本語で聞くことが出来、より楽しむことが出来たように思います。また故宫や天安門、国家博物館など見るものが非常に多い観光地では、時間がない中でも見るべきものやその情報を事前に教えていただいたので、混雑している中でも楽しんで観光することが出来ました。個人で観光した際、想像以上に広さや事前の情報の少なさからかなりの時間がかかってしまったので、事前に調べておくことの大切さを実感しました。

今回は企業見学としてホテルニューオータニ長富宮飯店と日本大使館を訪問させていただきました。ホテルニューオータニでは職員の方の現場での話を聞くことが出来、海外の方とともに働くということの大変さを少しではありますが知れたように思います。また施設内も見学させていただきましたが、レストランも和洋中全て揃っているなど施設が充実していることに驚かされました。大使館ではより多くの中国の方に大使館に来ていただく方策を企画させていただきました。企画・提案をするうえで、現地の方について考えるには現地の風土や生活について知らなければならず、現地に密着した仕事だと感じました。職員の方の話を通じて、現地について理解を深めることの重要性を実感できたように思います。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

今回の研修では、上記のように現地に行ってみなければ分からなかったことが多くありました。この経験をする上でアドバイザーさんやガイドさん、現地の方々、企業訪問先の職員の皆様など多くの方と関わり助けていただきました。改めて感謝申し上げます、本当にありがとうございました。中国という場所で得られた経験を今後の中国語の学びに生かしていきたいと思っています。

北京外国語大学短期研修を終えて

文教育学部人間社会科学科1年 牧野 里穂

私が今回の研修に参加した理由は、大学在学中に中国語である程度の会話ができるようになりたいという目標を持っていたからである。中国語の学習を始めて数ヶ月で実際に北京を訪れて2週間を過ごすのは無謀であるようにも思われたが、この研修は単独での語学留学よりも安心感のある団体での研修であり、折角の機会を逃すのも惜しいと思い、参加を決めた。北京に

到着した時は不安も大きかったが、二日目に同級生と3人だけで始めて地下鉄に乗った際に、異国の地で公共交通機関を利用できたという達成感と自信を得ることができてからは、様々な場所を訪れ、色々なことに挑戦してみようと思えるようになった。

平日の午前中の授業は中国語で行われたため、先生の話すことを理解するのは難しかったが、先輩や同級生の力も借り、多くの単語やフレーズ、語法を学んだ。日常的に使用できる、実用的なものも多く習得したが、中国語のテキストや会話本にはあまり載っていないさそうだとと思われる、マイナーなものにも出会うことができた。午後には、地下鉄を利用して様々な観光地や街へ行き、授業で学んだことや辞書、ジェスチャーを活かしながら、食やショッピング、アクティビティなどの文化に触れた。また、団体で天安門、万里の長城などの歴史的名所や、ホテルニューオータニ、日本大使館などの日本との関係も深い場所を訪れた際には、多くの他の研修生との会話から、様々な視点で物事を考えることができた。特にホテルニューオータニや大使館では、中国に詳しい方々から、留学生では見えないような視点での、中国の社会や日本との関係、さらに今後の展望などを直接お聞きすることができ、大変勉強になった。

また、食材や料理、店に並ぶ商品には日本では珍しいものも多く、交通ルールや郵便などの日常的な規則やシステムも日本と異なる点が多いため、毎日新たな発見や驚きがあり、自分の中で常識だと思っていた事柄が覆されることも多々あった。インターネットや新聞の記事で得た断片的な情報しか知らなかった中国について、実際に生身で文化を体感し、見聞を広めたことは、今後大きく役立つと思われる。

また、街中で困ったことがあった際には、携帯電話で情報を調べ、時には中国語で現地の人と会話を試みるなど、課題解決能力を養うこともできたが、それらは主に、共に行動する同級生や先輩がいるという心強さがあったからできたことであると思われる。さらに、腹痛や風邪といった体調不良などのトラブルに見舞われた際には引率の先生方にサポートして頂いたことも大きな助けとなった。

このように、今回の研修は私の初めての留学であったが、団体での留学であったからこそその安心感があり、様々な知識や価値観を学ぶことができた。大変充実したこの2週間の経験を活かして、今後も語学・社会的

能力の両面で成長していきたい。

研修で学んだこと

文教育学部言語文化学科1年 松井 華

今回の研修参加について、私はぎりぎりまで悩んでいました。まだほとんど中国語を習得していない一年生の段階で参加することに抵抗があったからです。しかし、行ってみると想像以上に充実した時間を過ごすことができました。北京の夏は日本よりもからっとしていて、とても過ごしやすい気候でした。大学での授業は、最初は緊張しましたが先生方がいずれも優しく懇切丁寧に教えてくださったので、最後まで全く苦痛に感じることなく楽しく受けることができました。物価は、食べ物に関しては日本と比べると圧倒的に安く、値段をそこまで気にせずに食事や買い物を楽しむことができました。数々の料理の中で私が最も気に入ったのは、手抓餅です。これは北京大学構内の「超市」近くにあるお店で販売されていました。甘くないクレープのような生地でお肉や卵などを包み、特製のソースがかけられています。引率の先生に勧められて一度食べてみたところそのおいしさにやみつきになり、それからずっと授業がある平日の昼食はそこで食べていました。

観光地では、万里の長城が最も印象に残っています。これまで教科書の写真でしか見たことがなく一度行ってみたいと思っていたので、その山々に連なる広大な姿を目にするともう登る前からとても気分が高揚しました。そのように喜び勇んで登り始めたのはいいものの、思っていた以上に傾斜のきつい石段が続き、目標の地点に到達するころにはすっかり息があがってしまいました。石段の高さや通路の幅もまちまちで、この長城が人の手によって造られたものなのだというのを改めて実感しました。しかし上からの景色は先ほどまでの疲れを吹き飛ばしてしまうくらいに雄大で、来てよかったと心から思わせてくれるものでした。次はもっと体力をつけて、さらに上のほうまでチャレンジしたいです。

たくさん楽しいことを経験した今回の留学でしたが、後半にはハプニングも起こしてしまいました。北京国家博物館を見学している最中に、パスポートをなくしてしまっただけです。しかし、ツアーコンダクターの方、

現地の大学生ガイドの胡さん、そして引率の先生のお力で、無事帰国日までに臨時パスポートを発行することができました。皆さんには本当に感謝しています。このハプニングを通して、私は自分の言葉で主張できないことの歯がゆさを痛切に実感しました。これからもっと中国語を学び、たとえ現地で何が起ころうとも今度は自分で切り抜けるくらいの語学力を身につけたいです。

全体としてとても成長することができた14日間でした。この研修で学んだ中国の文化や歴史を忘れず、今後の学生生活に活かしたいと思います。

我想再去中国

文教育学部言語文化学科1年 松島 有希

私が北京研修に行こうと思った理由の一つとして、両親への反感という面がありました。私の両親は、人をいわゆる「人種」（学歴、国籍、血液型など）でまとめて考える傾向が少しあると常日頃思っていました。どこにでもそういう人は一定数いますが、中国に対しても、多くの人が考えるイメージとしてプラスでないものも多いでしょう。そのような自分の中にもあるイメージを、実際の自分の経験に基づいて再構成したいという気持ちで今回の研修に参加しました。語学の面では、強制的に中国語を話す環境下でリスニング・スピーキングを上達させたいと考えていました。

・どの国も優しい人とそうでない人はいる

火鍋を食べに行った際に、全てスマホで行う注文の仕方が全くわからずとりあえず肉だけ注文してみたものの、少なすぎて店員さんが何人か来て説明してくださって、なんとか最小限注文できました。しかし少し待っていると全く頼んでいない料理が次々に運ばれてきて、慌てて頼んでいないことを伝えると、店員さんと一緒に対応してくださった料理長のご好意で「あなたたち食べ方をわかってないみたいだからプレゼントです」と言われ、まだ信じられない私達は「後から請求されるのかな？チップ払った方がいいのかな？」と思いいろいろ尋ねてみたりしたのですが、結局それ以上の答えは返ってこず、半信半疑のままとても美味しい火鍋とたくさんの料理を出されるままに食べ、時間をかけてたくさん対応してくださった店員方にお礼の手紙を書きました。結局チップも断られ、もともと頼

んだ以上の額も請求されませんでした。

言語が通じないことを疎ましく思う人もいれば、諦めず会話をしようと話しかけてくれる人、いろんな人がいて当然なんだと改めて感じました。

・観光はどこも歩き疲れる。

故宮、長城、雑技団、天安門、動物園、博物館、王府井、什刹海、南鑼鼓巷、スーパーでさえ見るところがたくさんあり、広すぎて毎日へとへとになるまで歩いて観光しました。

しかし、私が1番印象に残っているのは后海付近の観光地でない場所でみた人々の暮らしです。隙間なく、境目もよくわからない家が立ち並び、外で涼んでいるおじさんがいたり、公園には驚くほど多くの人が出て、犬の散歩途中で話し込んだり、テーブルを置いて麻雀やトランプをしたり、バトミントンや体操をしたりなど思い思いのことをしていました。ただの公園にこんなに人が集まるのか、と驚いたと同時にそのほとんどが中高年以上で、子供は学校に行っていたり、若者は遠出しているのだろうということが想像できました。そのようなより日常に近い北京の姿を見ることができたことが興味深かったです。

日本大使館で実際に働く方々の話を聞いたことで、こんな仕事もあるのかと、自分の中に今までなかった選択肢が生まれました。一概に公務員とは言えど、現地で日本と中国の橋渡しをする重要な役割を担う方々の生の声を聞いて、女性として働くことについて改めて考えるきっかけになりました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

今回の北京研修で、中国の人々や歴史、その暮らしについてさらに興味が湧いてきたので、まずは語学力を上げて個人でも気軽に行けるようになりたいです。

私を変えた2週間

文教育学部言語文化学科2年 水野 志和

私は高校生の時から第二外国語としての中国語に興味があり、昨年度から北京研修の参加を考えていた。どうせ行くなら1年間中国語を学習して、ある程度中国語が使えるようになってから行ってみたいと考えていた。しかし、実際に北京に乗り込んで見たら、全く中国語が使えない。話すことも、聞いて理解することもできない。書いてある文字は、スマホで検索してよ

うやく理解できるかどうかというレベルである。上級生で中国語専攻なのに、と悔しい気持ちでいっぱいだった。

しかし授業を受け始めてから、下手でも話してみる機会が増えた。もちろん私の中国語は下手なのだが、相手側はきちんと聴いてくれるし、ゆっくり話してくれる。こちらの言葉がうまく出てこなかったり、聴いて理解できなくても笑顔で別の言葉に言い直してくれる。私は、コミュニケーションを取ろうとしてくれることが嬉しかった。中国で一番感じたのは、人の暖かさだ。異国の地で2週間過ごすことで、人の優しさを感じることができた。自分自身も、とりあえず話してみようという積極性が出てきた。授業中はもちろん、授業後に先生と話したり、宿題で「中国人にインタビューしてみよう」と言われたときも、嫌だな～というマイナスの気持ちよりも、楽しみ！伝わるかな！？ドキドキ！というプラスの気持ちの方が大きかった。実際にインタビューした相手もとてもいい人で、私の中国語が拙くても最後まで付き合ってくれたし、英語を交えつつインタビューに答えてくれた。

北京に2週間行ってみて、初めはただ流れて行った音が、ちゃんと言語として意味を持って聞こえるようになったのが嬉しかった。滞在したホテルでもテレビを流すようにしていたのだが、はじめは何も聞き取れず字幕頼りだったのに、段々と耳からも意味が取れるようになっていった。北京に来てはじめは挫折しか感じなかったが、自分ができないことを受け入れ勉強することでだんだん自信がついた。北京研修に参加したことで中国語学習はもちろん、専攻コースの勉強に対するモチベーションも上がった。

また語学だけではなく中国文化に対する興味も湧いた。日本では見たこともないような風景・食事に実際に触れることで新しい中国に出会えた。実際に見てみると映画等の知識で知っているのとは、自分の興味・関心の度合いが全く異なることを知ったし、自分が持っている知識は非常に部分的だということもわかった。日本に帰ってからも、改めて日中の違いを感じている。

実際に中国で働く人たちと話せたのも大きな勉強になった。北京に出発する前から、中国で働く日本人の声が聞ける企業訪問が楽しみだった。ただぼんやりと中国に関係するような仕事に就けたらいいなと考えていたが、本当に中国で働くなら、とリアルに考える

機会を頂いたし、帰国してから聞いたお話を共有しながら親とも話してみた。まだ将来について明確なビジョンは持っていないが、これから就職する上での貴重な材料をいただいた。また北京に行きたいと思う、非常に有意義な2週間だった。

二週間の北京研修を終えて

文教育学部人文科学科2年 本部 早紀

今回の語学研修が、私にとって初めての海外渡航だった。学生のうちに外国を訪れたいとかねてから思っており、さらに比較歴史学コースに所属を決め、専攻は中国史にしようか…とぼんやりと考えていた私にとって、この研修はとても魅力的だった。

申し込み手続きを終え、北京に行く前にもう一度しっかり勉強しようという計画を立てたものの、学期末の多忙と体調不良によりその計画は崩れ去り、不安だらけな中研修が始まった。しかし、始まってみれば本当に充実した、楽しい二週間だった。

まず授業だが、新たな文法や使い方を習うことはもちろん、先生の話し方や文章の作り方から、よく使う表現を自分なりに発見したりと、非常に勉強になった。しかし何とんでもオール中国語の授業、しかも私はなぜか上級生や中文コースの方々と一緒に上級コースに振り分けられてしまい、予習を一生懸命やっても、ついていくのがやっとだった。周りの人や先生方にさんざん助けをもらい、何とか無事修了証書をいただくことができた。

そんな刺激的な授業だったが、さらに刺激的だったのが自由行動の時間だ。中国の人は、日本人のように常に笑顔で接客するのではなく、むしろ仏頂面なので、意思疎通ができない私に対し怒っているのではないかと最初は不安だったが、みな私の拙い中国語を何とか理解し、伝えようとしてくれていて、実はとても親切であるということに気づいた。そんな親切な人々に助けをもらいながらたくさん場所を訪れた。特に印象的だったのは、円明園だ。毎朝、ホテルから大学へ向かう道のりがとても気持ちよかったので、朝に円明園を散歩するのはさらに気持ちが良いのではないかと目論見で、早起きして向かったのだが、結果は大当たりだった。朝の円明園は人がまばらで、年配の方々が散歩や運動をしていた。観光地というイメージだっ

たが、地域の公園としても親しまれていることがわかり新鮮だった。かの有名な西洋楼遺址区へは、広大な園内を縦断しなければならず、ようやくたどり着いたところにはだいぶ歩き疲れていたが、歴史の資料集で見た遺跡を実際に目にしたときには感無量だった。廃墟と化した円明園の何とも言えない雰囲気、なんとほとんど独占状態で満喫することができた。

また二週間をこれほど楽しく過ごせたのは食べ物が美味しかったからだろう。餃子、小籠包、(辛くない)火鍋、牛肉麺、羊、北京ダックと、結構贅沢に食事を楽しんだ。特に餃子と北京ダックは、食べていて思わず口角が緩むほど美味しかった。訪れた店は日本にも出店しているらしいので、ぜひ食べに行こうと思っている。

北京は想像よりはるかに快適で、楽しく、美味しく、優しい街であった。渡航前、北京に行くと言げると、ほとんどの人反応は「いいね、でも大丈夫なの？」というものだった。私もどこかそのような思いはあった。しかし、現地に行ってみると、日本には分からない北京の活気や人を知ることができた。もちろん短い滞在ではわからないものもたくさんあったはずだ。もっと中国を知りたいという気持ちにさせてくれた二週間だった。

北京での二週間

生活科学部食物栄養学科1年 矢口 朋恵

初めての海外、習い始めて間もない中国語、顔見知りは一人もいない。私にとって今回の研修はまさに0からのスタートでした。だからこそ、研修の全てが新鮮で、刺激的で特別な経験になりました。

北京外国語大学の授業で学んだ中国語は、北京での毎日の生活に直結するものばかりでした。まず習得したのはメニューの注文の仕方でした。初めて自分の言葉で食べたいものを頼めたときの感動は忘れられません。私は食欲だけは旺盛なので、食べ物に関する語彙はかなり増えたと思います。他にも買い物や写真撮影で使える表現など、習ったことをすぐに活かす場があったことで、学ぶモチベーションが上がりました。授業の合間の雑談も面白かったです。紹介されたものの中で最も興味深かったのが、中国の学生が使っている日本語の教科書です。日本語の「え?」「ええ。」の

ような音の違いを練習するところから始まっており、流石四声の国だと感心しました。

午後の自由時間は積極的に観光に出かけました。万里の長城、故宮博物院、鳥の巣、北京動物園……どこに行っても規模が大きく、広く、圧倒されました。歩数計を見返すと、毎日二万歩近く歩いていました。特に長城を登った後は2、3日筋肉痛が治りませんでした。建設当時の苦労は計り知れません。王府井では中式マッサージを受けるという少し贅沢な体験もしました。マッサージ師の方は私の拙い中国語にも熱心に耳を傾け、簡単な単語を使って話しかけてくださいました。現地の方とゆっくり話す時間を持って嬉しかったです。

二週間の滞在を通して、中国に対する印象はかなり変化しました。例えば衛生面です。正直に言うと、出国前は不安な要素でした。しかし、実際にはこまめに清掃が行われており、観光地の道端に落ちているゴミは日本よりも少ないくらいでした。ここ数年で観光業に力を入れ、劇的に改善されたそうです。現地に赴かなければ知らないままでいたと思います。食べものが安くて美味しいこと、地下鉄が便利なこと、パンダが活発でとても可愛らしいこと、ここではとても書ききれません。ぜひ多くの方に、自分の目肌で感じて確かめていただきたいです。

最後に、お忙しい中時間をとってくださったホテルニューオータニ様、日本国大使館様、研修に携わってくださったアドバイザーの胡さん、先生方、大変お世話になりました。皆様の手厚いサポートのお陰で、実りある二週間になりました。有難うございました。語学の上達を少しずつ感じると同時に、聞き取れない、上手く話せないもどかしさも感じた二週間でした。今後も勉強に励み、また中国を訪れる際にリベンジしたいと思います。



初めての北京

文教育学部言語文化学科日本語・日本文学コース2年
柳澤 瑞希

私はこの夏、人生ではじめて中国・北京の地に降り立ちました。北京に行こうと決意した理由は、大学生のうちには出来ないようなことをやろうと思ったことと、日本語が全く聞こえない環境で中国語の勉強を試みたいと思ったからです。正直、中国に行く前は、PM2.5の問題や、中国人の人柄についてなど、分からないことばかりで、「のどを痛めるかもしれない」「スリに遭ったりしないかな」などと、不安でいっぱいでした。しかし実際に北京で2週間過ごしてみて、中国人のおおらかさや、日本と同じくらい空気が綺麗なこと、日本の製品に厚い信頼を置いているためによく分からない日本語が書いてある商品が売られていることや、日本語を「かわいい」と思っている人がいることなど、日本国内にいただけでは知り得ないたくさんを知ることができ、北京に来て良かったなど、深く実感することが出来ました。

研修の際にお邪魔したホテルニューオータニでは、なかなか見ることのできない部屋を見学させていただいたり、社員さんの貴重なお話を聞くことができたりと、日本ではできない経験をたくさんさせていただきました。安倍首相が泊まったこともあるスイートルームを始め、すべての部屋の管理が細かいところまで行き届いていて、こんな部屋に泊まってみたいと強く思いつつ、そう思わせる「思いやり」の丁寧さに心を打たれました。日本の常識がなかなか通じない環境の中で仕事をするの大変さを知った上で、またホテルに足を運んでみたいと思います。

日本大使館では、複数人の職員さんの話を聞かせていただき、また「日本大使館をよりよくするためにはどうしたらいいか」ということを考える時間を設けてくださいました。日本でも大使館に行ったことがなく、この訪問が私にとっては人生初の大使館でした。大使館というととても堅いイメージがあり、足を踏み入れにくい印象があったのですが、今回の訪問で、その国について知ってもらいたいという思いがこもっている建物だということを知ることが出来ました。日本でも大使館に足を運んでみたいと思います。また、「日本大使館をよりよくするために」ということで、たくさん意見を挙げさせていただきました。その時は思った

ことを素直に述べただけだったのですが、改めて振り返ると、とても貴重な体験をさせていただけたのだなと思います。より素敵な大使館になることを心よりお祈り申し上げます。

この中国語学研修で知った「中国の素顔」の一部は思い出に残り続けることと思います。この経験を心に刻み、これからも中国語の勉強に勤しんで参りたいと思います。

北京研修を終えて

文教育学部人文科学科2年 柳田 佳穂

先日お昼にエスニック料理を食べていたところ中国めいた味を感じ、あっこれはパクチーか、と思った。私は北京に行くまでパクチーを食べたことがなかったので、中華料理を食べるうちにパクチーは私にとっての中国の味覚になっていたようである。

日本に帰ってから日常生活で中国らしさを感じることもそ増えたものの、私は中国語がよくできたわけでも中国に非常に興味があったわけでもなく、ちょうど良いので行ってみようという程度でこの研修に参加した。私にとって中国はテレビで映る天安門広場と渋滞の国であって、中華料理にもパクチーが使われることなど知らなかった。

北京についてははじめに大陸に来た、と感じた。周りはアジア人だらけ、パッと見て東京と大差はないようなのに、ひたすら大きい空港から海は見えず延々と陸地が続いている。左ハンドルのバスに乗って乾燥した空気と霧がかかった空の中市街地に入ると、テレビで見たことがあるような、でもそれよりも人間味のある景色が広がっていた。私の頭の中の中国へのイメージは、断片的である意味日本人的なものだったのだと思う。

実際の北京は、地下鉄の駅ではいつもヒーリングミュージックが流れているし、道は広くてゆったり歩ける。ゆったり歩けると心に余裕ができる気もする。観光地ではしょっちゅうおばちゃんが怒鳴っているように聞こえるけれど、大抵音量がすごいだけで怒っているわけではない。いろんなところにゴミ箱があって、レストランのおしぼりからはいい香りがする。教室の机はなぜか高かったが、2週間授業を受けていれば慣れてしまった。

1日約4時間にわたる十日間の授業は濃密な時間

だった。ほとんどピンインがついていないテキストや、課題の作文、授業内での先生との会話などを通して、自分の中国語力を強化するのみならず、自分が今わかる中国語の中でいかに自分が伝えたいことを伝えるかということ学ぶことができた。

午後の自由時間ではメジャーな観光地はもちろん、通常の旅行ではあまり訪れないような所も訪れることができた。最も印象に残っているのは宛平城と盧溝橋である。明清時代の城郭都市の雰囲気や、その中に残る日中戦争の遺構に実際に触れられたことは、自らの歴史観について考える良いきっかけとなった。

また、在北京日本大使館、ホテルニューオータニを訪問し、お話を伺う機会をいただいたことで、実際の北京での生活やお仕事について、また日本人が海外で働くということについて知ることができた。

二週間の北京滞在で、文字や映像でしか知らなかった中国を、中国人という言葉で一緒にたにできる存在ではなく、個性を持った個々人が実際に生活している場所として身近に感じられた。

最後に、今回の研修ではたくさんの方々にお世話になりました。研修を無事に終えるだけでなく、書ききれないほどの経験をすることができました。本当にありがとうございました。

北京語学研修に参加して

文教育学部言語文化学科2年 横村 くるみ

専攻を中国語・中国文化に決めたこともあり、今回の北京語学研修に参加しました。これまで中国に行ったことがなかったので、行く前は生活環境の違いや現地での学校生活に慣れるか不安でした。拙い語学力での生活は、最初こそ授業も買い物も食事もなかなかうまくいかないが多かったですが、過ごしていくなかで段々と中国での生活にも慣れていきました。午前中の授業は、全て中国語で行われたので新鮮でしたし、先生が私たちのレベルを考慮しながら進めてくださったのでとても有意義なものになったと思います。そして、午後は自由時間になっていたもので、地下鉄に乗っていろいろな場所を訪れました。中華街や本場の中国料理、教科書で見たことのある天安門広場・北京動物園などの観光地、雑技団や京劇といった中国文化は、イメージそのままでも感動的なものでした。自分

の足で見に行ったことで中国文化の歴史を肌で感じることで、これまで学んできたことが現実味が増し更にその迫りに圧倒されました。出先では自身の中国語で現地の方とコミュニケーションをとらなければならないので、相手に伝わらないこともあって戸惑いましたが、きちんと伝わったときやコミュニケーションが取れたときは「私の中国語が通じる！」と嬉しくなったのを覚えています。中国語のスピーキング・リスニング能力への自信に繋がりました。授業ももちろん語学力向上に大切ですが、実際に現地の方と話す経験はその国を訪れないとなかなか出来ないものなので、こうした経験の重要性を改めて感じました。また、今回の研修のなかでホテルニューオータニ長富宮飯店と日本大使館への訪問をさせていただきました。中国での職務の実態や日本と中国の生活の違いなどに関して、中国で働く日本人の方の声を直接聴くことができ、専攻を中国に決めた私にとってはとてもためになりました。貴重なお話をありがとうございました。二週間という限られた期間での研修で得られたものは多く、今後の大学での授業にもきっと生きてくると感じています。午前中の有意義な授業と午後の十分な自由時間によって、中国語の実用的な運用能力と中国文化への知識・関心をかなり深めることが出来ました。ここまで充実した研修をサポートしてくださった方々、ありがとうございました！



アドバイザーから

2019年御茶水女子大学暑期研修领队感想

胡翠南

这个暑期，我有幸担任御茶水女子大学暑期短期留学团的领队，与来自御茶水女子大学的老师同学们一起度过了难忘的两个星期。

我并不是一个很擅长交流的人，之前也几乎没有做过这种领队的工作。在见到御茶水女子大学的师生之前，每天都处于十分紧张的状态下，一直担心自己没法做好领队的工作，给御茶水的大家留下不好的印象。但是在机场接到大家的时候真的很开心，同学们对我的工作都很配合，老师们也帮了我很多。桥本老师作为一行人中唯一的一位男性，可以说是非常可靠了。同学们的行李箱也是桥本老师帮忙搬的。水津老师很有经验，想得很周到，平时组织同学们的时候也多亏了水津老师帮忙安排。这次由于人数多，分了两个地方住，跟我一起住在留学生公寓的同学们中间还要经历一次换宾馆。虽然分开住有很多不方便的地方，但是大家都配合，换宾馆的时候也很顺利，每次集合都很准时。

同学们对汉语的学习热情很高，进步也很快。在旅游的途中，导游会用汉语问大家一些简单的问题，教大家一些汉语的小知识，同学们都听得很认真。也时不时地会有同学来问我一些跟中国有关的问题。还有同学用微信发给我她造的句，让我帮忙检查一下语言表达有没有问题。留学的最后几天，初级班的几位同学也鼓起勇气采访我和导游，出色地完成了汉语课上布置的作业。欢送会上学生代表的几位同学的中文也非常优秀，其中还有一位同学竟然不看稿子就非常流畅地完成了发言，实在是叫人佩服。

这次短期留学总体来说还是很顺利的，除了后半程有位同学丢了护照之外。在各方的努力下，最后很幸运地及时拿到签证，总算是有惊无险。虽然说丢了护照不管是对当事人来说，还是对带队的老师和我来说都不是一件值得高兴的事。但确实因为这次小插曲，获得了很多经验。相信那位丢了护照的同学在经历这次的事情后，对重要物品的保管能力一定提升了不少。老师那边也有了经验，相信下次就算再出现这样的情况，也可以沉稳应对了吧。至于我，虽说之后应该碰不到这种事情了，但这次能和这么多的社会上的人接触，也算开了眼界了。

这两个星期，托同学们的福，我也时隔多年参观了北京很多有名的地方。能跟年龄相近的同学们一起坐大

巴士去各种地方玩，就像回到了小学的春游一样。另外，能和大家一起吃大餐，谈论中国菜的奇妙之处也是非常令人开心的一件事。同学们为中国菜的博大精深感到惊奇，我也从她们那里学到了很多食材的日语说法。然而两个星期实在是太短了，转眼间就到送大家去机场回日本的日子。大家都买了很多特产，行李比来的时候更多、更重了。希望同学们能够以这次短期留学为契机，喜欢上中国，喜欢上中国文化。希望有朝一日，能够在中国再见到大家。

2019年10月3日星期四



引率教員から

北京研修を終えて

外国語教育センター 水津 有理

五月の説明会に始まり、七月の事前オリエンテーション、八月の本研修と続いた夏の北京研修プログラムも、十月のグループ課題発表及び参加者各自の報告書の提出をもって一区切りとなった。今年は参加希望者が例年になく多く、学生総勢35名（昨年は22名）の大所帯となったため、到着初日の夜に飛び込んだ大学近隣のレストランでは店内を半ば占拠し、宿泊も留学生宿舎（「国交楼」、後半は引っ越し）とホテル（「北外賓館」）に分かれるなどしたが、上級生の参加者の参加者も多く（14名、うち中国語・中国文学専攻8名）、概ね順調に研修を終わることができたと思う。

北京外国語大学での授業は、到着翌日から始まり、帰国前日の修了試験で終わる。初日は簡単なクラス分け試験を受け、以後はそれぞれのクラスに分かれて平日8時から12時までの授業に臨むのである。授業のみならず、食時や街歩きなど日常のすべてがことばの学習の実践の場で、習い覚えた表現をすぐに使うことができる、学んだことのアウトプットの場がそこらじゅうに広がっている、というのもこの研修の楽しさの一つだったろうと思う。

先生の中国語を聞き逃さないように、クラスメートに遅れをとらないように必死に聴き、また必死に答えねばならないオール中国語の授業は学生にとっても新鮮なものだったと思うが、同時に引率教員にとっても、日頃教えている学生たちが、懸命に授業に向かうすがたを垣間見られる得難い機会でもあった。たとえば今回一番上のクラスでは、初日に早くも課題が出され、授業二日目の授業は、簡単な会話でウォーミングアップをしたのち、学生それぞれが課題（「我最欣賞の一箇人」）についてまとめた意見を語る、というかたちで始まった。学生たちが、家族、歴史上の人物、ユニークな会社創業者からアーティストまで多彩な人物の名を挙げ、それぞれ自身が「素晴らしいと思う」理由について中国語で懸命に語り、また質問に答えるすがたをみて、モチベーションやアウトプットの機会があれば、学生はもっともっと上達できる、と改めて感じた。その為の学習環境や教材をどのように整えて行くかは、語学担当の教員にとって終わりのない課題ではあるが、

毎回研修の引率を担当して思い出すのは、自分自身がはじめて中国に行ったときのこと、そこで生の中国語に触れたときのことである。私にとってそれは、教室で学んでいることばが、（当たり前のことだが）私たちと同じくいまを生活している人々の生活のなかにある、血の通ったものであることを体感した瞬間であり、片言ながらもことばが通じるよこび、コミュニケーションできる楽しさを知った初めての体験だった。おそらく今回の研修参加者の皆さんにも、そのような瞬間が——数々の失敗のなかにきらっと光る瞬間、「あ、いま自分は自分の手で何かに触った」と思える瞬間があったのではないだろうか。報告書を読むと、片言でも、たとえ「へっぽこ」でも、自分の言いたいことが通じた、その場にいる誰かと通い合えた、というシンプルで純粋な喜びが溢れている。是非、その瞬間を忘れずに、どんどん教室を飛び出して皆さん自身の発見の旅を続けて欲しいと思う。

最後にこの場をお借りして、ご多忙の中、日程を調整して私たちを迎えて下さり、貴重なお話を聞かせていただいた在中国日本大使館広報センター及び長富宮飯店ホテルニューオータニの皆さま、様々なかたちでこの研修に力を貸してくださった多くの方々に、心から感謝申し上げます。

汉语短期研修項目報告（中国語短期語学研修プロジェクト報告）

外国語教育センター 陳 暁

2019年8月18日～31日、我作为带队老师之一，带领学生们前往中国北京・北京外国语大学，参加了“汉语短期研修项目（中国語短期語学研修）”。这是我第二次参加这个项目，在第一年的经验基础上，我做了很多准备。在准备期间，得到了和田老师、水津老师、桥本老师、竹野老师和鸟居先生（毎日エデュケーション）的多方面照顾。

今年我主要负责的是8月25日之后的后半段。前半段在水津老师与桥本老师的带队下，学生顺利地到达了北京外国语大学。此次研修由于人数较多，所以学生们分两处住宿，且相隔距离稍远。但在水津老师、桥本老师与北京外国语大学的向导胡翠南同学的帮助下，学

生们积极配合，较快地适应了生活，进行了前半段的汉语学习。北京外国语大学的各位授课老师们也非常认真，对学生也很热情和关心。并且在同一堂课，分为“语法解释”“对话练习”两种方式，由不同老师担当授课，让学生们可以跟不同老师进行练习，提高交流能力。学生们在课上学到了一些地道的汉语表达方式，并可以在日常购物、购票、用餐及打车时使用。

我负责的后半段主要包括学生们第二周的汉语学习，以及访问日本驻中国大使馆、参观中国国家博物馆、观看京剧、最后的研修考试和欢送会。

在访问日本驻中国大使馆期间，大使馆的工作人员十分热情，对大使馆的工作性质和内容进行了介绍，还特别请来了两位女性工作人员与学生们进行了交流。学生们对她们的工作和生活很感兴趣，积极提问，关于女性如何分配工作与家庭，如何适应国外生活，如何寻求各方面的平衡等方面进行了交流。另外，学生们还参观了大使馆中的“新闻文化中心”，在“如何更好地展示日本文化”方面，对阅览室的布局提出了自己的想法和建议。

在参观中国国家博物馆期间，由于参观游客甚多，都在馆外排队入场，但学生们都很遵守秩序，没有出现随意走动或被人冲散的情况。在博物馆中，学生们对自己感兴趣的展馆进行了细致参观，有的学生还购买了书签、文件夹等特色纪念品。在这期间，北京方面的导游也很认真负责。

在观看京剧时，学生们也非常认真，体现出了兴趣。她们观察了京剧演员的化妆，观赏了三种不同类型的京剧片段。并且剧场的设施优良，学生们坐在前排，可以品尝北京特色的盖碗茶，以及北京的特色点心，体验了真正的京剧传统观赏方式。

在自由活动时间，学生们游览了北京很多的名胜古迹和大街小巷。例如，天坛、北京动物园、圆明园、后海、南锣鼓巷、王府井、香山等地。还吃到了各种中国菜和小吃，例如，火锅、小笼包、饺子、羊肉串、北京烤鸭、传统酸奶以及稻香春的小点心等。学生们的行动力非常强，眼光也很独到。特别是有的学生还去了胡同中的茶馆品茶，我个人觉得这是非常好的体验，因为“置身于胡同中悠闲品茶”是最具北京韵味的生活方式之一。

在最后的欢送会中，学生们获得了毕业证书，学生代表们还用汉语分享了她们研修期间的感想，其中用到了她们在北京学到的新词汇。欢送会后，大家还和北外的老师们合影留念，每位学生都很开心。

通过两周的研修学习，学生们的汉语水平得到了提高，对中国文化也产生了新的认识和兴趣，尤其还锻炼了实际的日常交流能力和在外国生活的适应能力。在整个大环境都说汉语的情况下，使得学生们更积极仔细地去听对方的发音和话语内容，并且迅速做出应对，这是语言学习中最重要的环节之一，也是对自身应对能力的良好锻炼。几乎每位同学都对本次的研修活动感到非常满意。

最后，向给予我多方照顾的老师、北京外国语大学以及外研社表示衷心感谢。特别是向导胡翠南同学，付出了很多精力。另外，也诚挚感谢参加此次研修的学生们，有了她们的努力学习和认真配合，才能顺利完成整个研修活动。



▲大学图书馆

▼教室棟前





▲授業風景



▲天安門広場で集合写真

▼授業風景





大学の軽食売り場（「手抓饼」売り場）



大学最寄りの地下鉄駅「魏公村站」



▲お世話になった先生と一枚

▼帰国後課題「北京一日游」企画発表





2019 年中国語短期語学研修報告書

中国語語学研修準備・実施委員会 編

(橋本陽介、水津有理、陳曉)

2020 年3 月 発行